

馬場東矢次遺跡

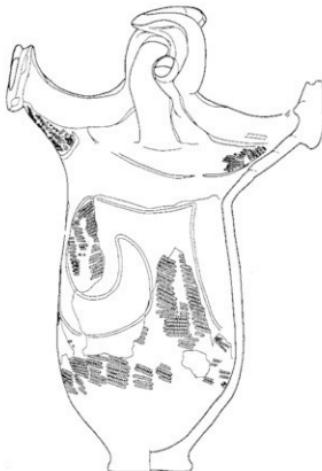
農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

馬場東矢次遺跡

農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



2007.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



馬場東矢次遺跡全景（南から）



H-1号焼失住居跡（南から）



J D-6号縄文土坑遺物出土状況（北から）



馬場東矢次遺跡出土 縄文土器

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。その悠久と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも9基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、總社古墳群から連綿と続く山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など「クニ」の中核施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が城をけずつた地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる駿河城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました馬場東矢次遺跡の発掘調査は、農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴うもので、縄文時代から平安時代にかけての集落跡など数多くの遺構や遺物が発見され、地域の歴史を知る上で貴重な資料が提示できたものと考えます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました馬場地区の方々、市農村整備課、調査に従事されました方々に厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成19年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 根岸 雅

例 言

1. 本報告書は、農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う馬場東矢次遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所	群馬県前橋市馬場町422番地8
発 掘 調 査 期 間	平成18年5月16日～平成18年8月18日
整理・報告書作成期間	平成18年12月11日～平成19年3月22日
発 掘・整理担当者	高橋 亨・神宮 啓（発掘調査係員）
4. 本書の原稿執筆・編集は高橋・神宮が行った。
5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木昭二郎・伊藤修道・植木政俊・高橋公代・多田啓子・角田節子・角田昌幸・長澤幸枝・中林美智子・奈良啓子・橋本ちづる・細野進太郎・堀込よ江・弥都啓吾
6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化保護課で保管されている。

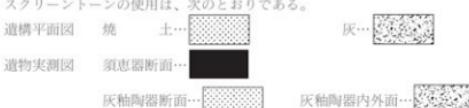
凡 例

1. 指図はすべて座標北にした。
2. 指図に国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮）、1/50,000地形図（鼻毛石）、1/2,000前橋市現形図を使用した。
3. 遺跡の略称は、次のとおりである。馬場東矢次遺跡：1J 1
4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

J…縄文時代の堅穴住居跡	H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡	W…溝跡
B…掘建柱建物跡	JD…縄文時代土坑	D…土坑
P…ピット・貯蔵穴（古墳・奈良・平安住居内P ₁ を貯蔵穴とした。）		
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構	住居跡・溝跡・土坑・ピット…1/60	壇断面図…1/30	全体図…1/200
遺物	土器・鉄製品…1/1、1/2、1/3、1/4	石器・石製品…1/2、1/3、2/3、1/4	
6. 計測値については、（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。
7. セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

◎	非常に締まり・粘性あり
○	締まり・粘性あり
△	締まり・粘性やあり
×	締まり・粘性なし
8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。



9. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B	（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP	（榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA	（榛名ニッ岳渡川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C	（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

目 次

は じ め に	i
例 言 ・ 凡 例	ii
I 調 査 に 至 る 経 緯	1
II 遺 踪 の 位 置 と 環 境	1
III 調 査 の 経 過	5
IV 基 本 層 序	6
V 遺 構 と 遺 物	7
VI ま と め	16

挿 図

- Fig. 1 位置図
- 2 遺跡周辺図
3 周辺遺跡図
4 基本層序
5 遺跡全体図
6 J-1・2号住居跡、D-4号土坑
7 H-1～3号住居跡
8 H-4号住居跡
9 H-4・6号住居跡
10 H-5・7号住居跡、D-1号土坑
11 H-8・9号住居跡
12 H-10・11号住居跡
13 B-1号掘建柱建物跡、JD-1～6号縄文土坑
- 14 D-2・3・5～9号土坑、P-24号ビット
15 W-1～3号溝跡
16 縄文土器
17 縄文土器
18 縄文土器
19 縄文土器
20 縄文土器
21 縄文土器・石器
22 古墳奈良平安時代の土器
23 古墳奈良平安時代の土器
24 古墳奈良平安時代の土器
25 古墳奈良平安時代の土器、石棒
26 石製品・鉄製品

図 版

- 図版 1 調査区全景（南から）
2 H-1号焼失住居跡（南から）
3 JD-6号縄文土坑遺物出土状況（北から）
4 馬場東矢次遺跡出土 縄文土器
- PL. 1 J-1・2、H-1～3号住居跡
2 H-4～9号住居跡
3 H-9～11号住居跡、B-1号掘建柱建物跡、JD-5・6号土坑跡、グリッド遺物出土状況
- 4 縄文土器
5 縄文土器
6 縄文土器
7 縄文土器、石器
8 古墳～平安時代の土器
9 古墳～平安時代の土器
10 古墳～平安時代の土器
11 石器、石製品

表

- Tab. 1 穴住居跡計測表
2 溝跡計測表
3 土坑計測表
4 ビット計測表
5 縄文土器観察表
- 6 古墳・奈良・平安時代土器観察表
7 石器観察表
8 石製品観察表
9 鉄製品観察表
10 古墳・奈良・平安時代穴住居跡時代別比較表

I 調査に至る経緯

平成18年2月8日付けで、前橋市長 高木 政夫 より農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸 雅 に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。

平成18年4月27日、調査依頼者である前橋市長 高木 政夫 と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 团長 根岸 雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月16日に現地での発掘調査を開始するに至った。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾野を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の4つの地域に分けられる。

本遺跡の位置する馬場町は前橋市の東方にあり、前橋市宮城支所の東南東約2.0kmの赤城火山斜面に位置する。この町の周囲には、鼻毛石・大前田・苗ヶ島町、柏川町田・室沢が存在している。遺跡地の地番は前橋市馬場町422番地8である。遺跡地の周辺には、のどかな田園風景が広がっており、民家が点在している。(Fig. 2)

2 歴史的環境 （遺跡名の後の（ ）付数字は、Fig. 3 の遺跡番号と対応する。）

宮城地区の周辺遺跡について歴史的に概観する。

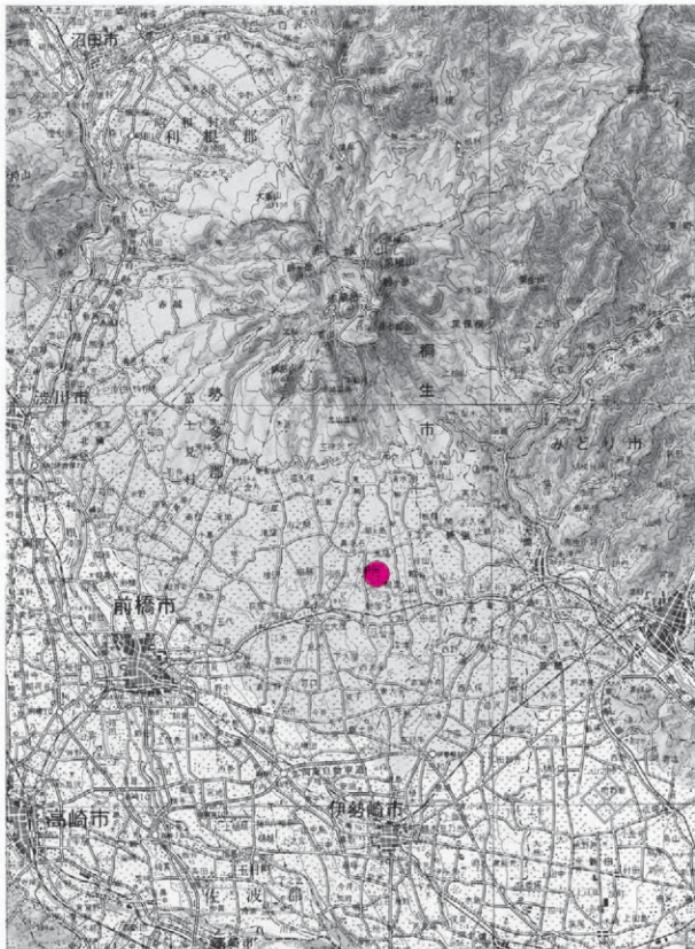
【旧石器時代】旧石器時代最終末の細石器文化の遺跡が発見、調査されている。故相沢忠洋氏により発見され、著名な樹形遺跡（4）をはじめとして、苗ヶ島大畑遺跡（5）、市之間前田遺跡（6）、市之間吉ヶ沢遺跡（7）がある。

【縄文時代】本地区では縄文時代の遺跡が最も多い。生活域として、また落し穴獣を中心とした狩猟域として、本地区が活潑に利用されていたことが窺える。以下時期を追って代表的な遺跡を概観していく。

草創期の遺跡としては、苗ヶ島大畑遺跡や柏倉落合遺跡（2）が挙げられる。前者は、条痕文系土器期の住居跡や炉穴・袋状土坑・集石土坑・落とし穴等が検出され、戸戸下層式土器等の沈線文系土器や押型文土器、鶴ヶ島台式～茅山上層式の条痕文系土器が多量に出土している。後者では、包含層遺物ながら鶴ヶ島台式土器等の条痕文系土器が多量に出土している。その他に市之間前田遺跡や苗ヶ島白山遺跡（8）・同III遺跡（9）等で沈線文～条痕文期の土器が少量ながら出土している。

前期前葉の二つ木式期では柏倉芳見沢遺跡（3）等があり、該期の住居跡が検出されている。後続する関山式期では、市之間遺跡（11）（指定名称：市之間縄文前期遺跡／13）や、その南方に位置する市之間前田遺跡等があり、それぞれ住居跡等が検出されている。前期中葉の黒浜・有尾式期では、柏倉大沢遺跡（12）で該期の住居跡や土坑が検出された。後半の諸磯式期の遺跡としては市之間前田遺跡があり、諸磯a式土器が僅かに出土している。ほかにいくつかの遺跡にて前期中葉～中期初頭の遺物が少量出土している。

中期の遺跡としては、中期前半～中葉の環状集落である鼻毛石中山遺跡（14）がある。翡翠製の大珠が検出された中央広場を中心として、土坑群が環状に配置され、その外側に住居跡が造る構成をとる。また遺跡の南半分



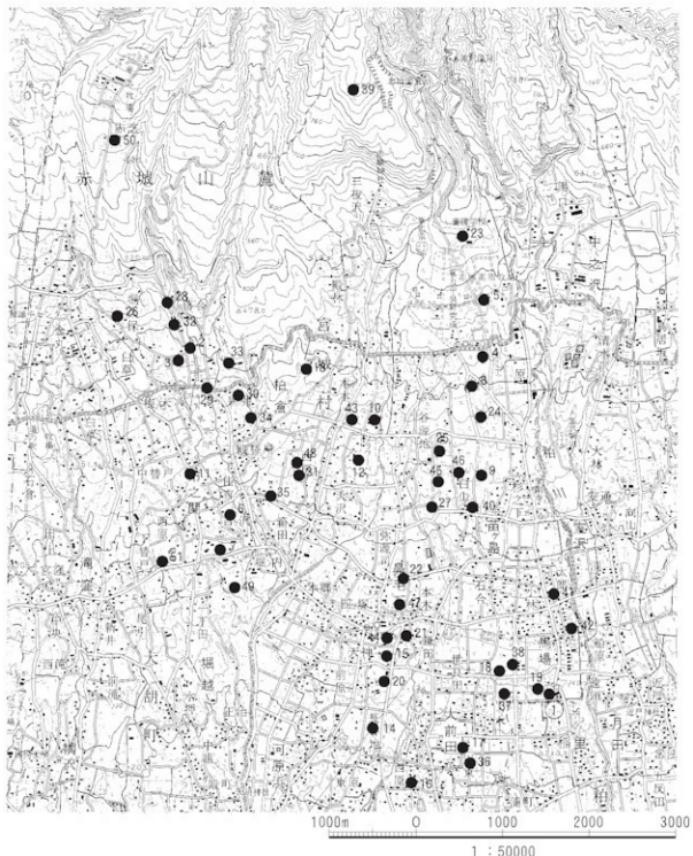
1:200,000

0 5 10 15 20 千メートル

Fig.1 位 置 図



Fig. 2 道路周辺図



- 1：馬場東矢次道跡（本道跡） 2：柏倉落合道跡 3：柏倉芳見沢道跡 4：柳形道跡 5：苗ヶ島大畠道跡 6：市之関前田道跡 7：市之関吉ヶ沢道跡 8：苗ヶ島白山道跡 9：苗ヶ島白山田道跡 10：柏倉大沢II道跡 11：市之間道跡 12：柏倉大沢道跡 13：柏倉殿林道跡 14：鼻毛石中山道跡 15：鼻毛石鎌田II道跡 16：大前田上十二道跡 17：大前田天神道跡 18：馬場西山道跡 19：馬場東矢次I・II道跡 20：鼻毛石鎌田I道跡 21：鼻毛石鎌田III道跡 22：鼻毛石赤坂I道跡 23：苗ヶ島大畠II道跡 24：苗ヶ島白山II道跡 25：苗ヶ島片並木道跡 26：柏倉(市之間)十文字道跡 27：鼻毛石弥源寺道跡 28：柏倉相吉道跡 29：柏倉下石倉道跡 30：柏倉新井橋道跡 31：柏倉西房道跡 32：No2227道跡 33：No2228道跡 34：No2229道跡 35：No2230道跡 36：No2236道跡 37：No2237道跡 38：No2250道跡 39：櫃石道跡 40：白山古墳 41：新山I・II号墳 42：古屋敷古墳 43：No2239道跡 44：一本木土師道跡 45：苗ヶ島片並木道跡 46：苗ヶ島王山道跡 47：鼻毛石赤坂II道跡 48：柏倉甲大前道跡 49：市之間吉沢道跡 50：No2238道跡 51：No2251道跡

Fig. 3 周辺道跡図

において盛土遺構も確認されている。中期後葉の遺跡としては鼻毛石鍊田II遺跡(15)や市之関前田遺跡があり、前者は加曾利E 3～E 4式期の住居跡が24軒検出され、それぞれ拠点的な集落のひとつと考えられる。ほかに、大前田上十二遺跡(16)や大前田天神遺跡(17)でも中期の土坑等が検出されている。

後期は、中期に比べて遺跡数は減少するが、馬場東矢次I・II遺跡(19)より、包含層遺物ながら堀之内式～安行式期の遺物が多量に出土している。また、市之関前田遺跡や鼻毛石中山遺跡からも後期の遺物が少量出土している。

晩期の遺跡の調査は行われていないが、鼻毛石町地内の荒砥川沿いの本郷地区にて少量表採されている。

なお、縄文時代の所産と見られる落とし穴は宮城地区内の各地で検出されている。苗ヶ島大畑遺跡・苗ヶ島大畑II遺跡(23)・苗ヶ島白山II遺跡(24)・同III遺跡・柏倉落合遺跡・柏倉芳見沢遺跡・柏倉相吉遺跡(28)・柏倉下石倉遺跡(29)・柏倉大沢遺跡・柏倉(市之関)十文字遺跡(26)・市之関前田遺跡・市之関吉ヶ沢遺跡・鼻毛石弥源寺遺跡(27)・鼻毛石赤坂I遺跡(22)・鼻毛石鍊田I遺跡(20)・鼻毛石鍊田III遺跡(21)・鼻毛石中山遺跡多くの遺跡で検出されている。

【弥生時代】

弥生時代の遺跡は発見されていないが、柏倉芳見沢遺跡・柏倉(市之関)十文字遺跡で中期後半～後期の土器片が出土している。

【古墳時代】

古墳時代に入ても遺跡数はあまり増加しないが、中期の祭祀遺跡であり、群馬県指定史跡である櫛石遺跡(39)では、手捏ね土器や滑石模造品等の祭祀遺物が豊富に出土している。また古墳としては、白山古墳(40)、新山I・II号墳(41)、古屋敷古墳(42)があり、白山古墳では波紋理鉢や和同開珎・藤手太刀等の特異な遺物が出土している。

【奈良・平安時代】

奈良・平安時代になると遺跡数は若干ながら増加し、再び生活域・生産域として本地区が利用されるようになる。集落遺跡としては、苗ヶ島片並木遺跡(25)や苗ヶ島山王遺跡(46)・柏倉(市之関)十文字遺跡・市之関前田遺跡・一本木土師遺跡(44)等があり、いずれも9～10世紀を中心とした集落である。また柏倉(市之関)十文字遺跡は、付近で小金剛仏が表面採集されているなど、その集落の性格に特異性がみられる。生産遺跡としては、県内の生産跡遺跡の先駆的調査ともなった、市指定史跡の苗ヶ島片並木遺跡(指定名称：製鉄片並木跡／45)があり、製鉄炉や住居跡等が検出されている。また炭窯は、柏倉芳見沢遺跡や柏倉甲大前遺跡(48)・市之関吉沢遺跡等で検出されている。

【中近世】

中近世の遺跡としては市之関前田遺跡があげられ、中近世の所産と見られる堀跡・溝跡や近世の掘立柱建物跡等が検出されている。また、地区内数箇所で城跡・砦跡が検出されている。

III 調査の経過

1 調査方針

グリッドは、4mピッチで西から東へX 0、1、2、3、…と、北から南へY 0、1、2、3、…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

馬場東矢次遺跡のX 0・Y 0の公共座標は次のとおりである。

$$X = 48940.000 \quad Y = -56824.000$$

調査方法については、表土掘削・遺構確認・杭打設・遺構掘下げ・遺構精査・全景写真・測量の手順で行った。遺構確認では、ローム漸移層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を行い、住居跡は1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納したが、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

5月16日、重機（バックフォー0.65m³）による表土掘削を開始した。表土掘削に2日かかり、並行して鋤屢による遺構確認を表土約50cm深のローム漸移層で行った。擾乱は少なく比較的良好な状況であった。5月19日に杭打ちを行い、遺構の掘下げ・精査に入った。遺構精査の結果、古墳・奈良・平安時代の窓穴住居跡1軒、掘立柱建物1棟、溝跡3条、土坑9基が検出された。7月11日に高所作業車による全体写真撮影を行った。

その後、調査区中央部から東部を中心に2mグリッドを設定し、土師面より20~30cmほど掘り下げ、繩文面の精査を行った。これは、ローム漸移層上部のAs-C軽石混土層から繩文時代後期の土器片が多数出土したためである。遺構精査の結果、繩文住居2軒、繩文土坑6基が検出された。

8月7・8日と調査区の埋め戻しを行い、8月18日をもって調査を終了した。

その後、元總社蒼海遺跡群（11）発掘調査があり、12月7日から文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたった。3月16日、遺物・図面・写真等の整理作業をすべて終了した。

IV 基本層序

遺構確認面は現地表面から約50cmのローム漸移層で行った。地形は北から南へ緩やかに下がっている。

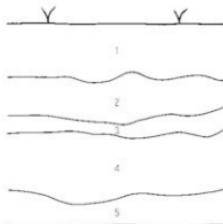


Fig. 4 基本層序

- | | |
|---|------|
| 1 | 現耕作土 |
| 2 | 黒色土 |
| 3 | 黒褐色土 |
| 4 | 暗褐色土 |
| 5 | 褐色土 |
- | | |
|----|------------------|
| ○○ | As-C・Hr-FA20% |
| △○ | As-C 5% Hr-FA 2% |
| △△ | As-C 2% ローム漸移層 |
| ○○ | ローム層 |

V 遺構と遺物

(1) 穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 6, PL. 1)

位置 X 1・2、Y 0 グリッド 主軸方向 N-90°-E 面積 (3.19) m² 形状等 楕円形と推定される。長径 (4.50) m、短径 (1.20) m、壁現高は7.0cmを測る。床面 堅緻。炉 検出されず。時期 埋土や出土遺物から縄文時代後期 (堀之内 I 式)と考えられる。遺物 総数160点、そのうち縄文土器2点、石鏃1点を図示。

J-2号住居跡 (Fig. 6, PL. 1)

位置 X 2・3、Y 1・2 グリッド 主軸方向 N-20°-E 面積 7.41m² 形状等 楕円形。長径3.41m、短径2.34m、壁現高は12.0cmを測る。床面 平坦。炉 検出されず。時期 埋土や出土遺物から縄文時代後期 (堀之内 I 式)と考えられる。遺物 総数67点、そのうち縄文土器1点を図示。

H-1号住居跡 (Fig. 7, PL. 1)

位置 X 2・3、Y 3・4 グリッド 主軸方向 N-85°-E 面積 12.42m² 形状等 長方形。東西4.50m、南北2.94m、壁現高は32.5cmを測る。床面 堅緻。窓 東壁中央部から検出され、主軸方向N-85°-Eであり、全長100cm、最大幅48cm、焚口部幅30cmを測る。貯蔵穴 あり。時期 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。遺物 総数437点、そのうち高台塊4点、甕2点、羽釜1点、砥石1点、角釘1点、刀子1点を図示。

H-2号住居跡 (Fig. 7, PL. 1)

位置 X 3・4、Y 5 グリッド 主軸方向 (N-117°-E) 面積 (1.85) m² 形状等 方形と推定される。東西 (2.42) m、南北 (1.54) m、壁現高24.5cmを測る。床面 堅緻。窓 検出されず。貯蔵穴 不明。時期 埋土や出土遺物から6世紀後半~12世紀初頭以前と考えられる。遺物 総数175点。

H-3号住居跡 (Fig. 7, PL. 1)

位置 X 5・6、Y 0 グリッド 主軸方向 N-88°-E 面積 (5.79) m² 形状等 方形と推定される。東西3.68m、南北 (1.66) m、壁現高65.0cmを測る。床面 堅緻。窓 東壁から検出され、主軸方向N-98°-Eであり、全長114cm、最大幅56cm、焚口部幅42cmを測る。貯蔵穴 不明。時期 埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。遺物 総数155点、そのうち坏1点を図示。

H-4号住居跡 (Fig. 8・9, PL. 2)

位置 X 6~8、Y 0~2 グリッド 主軸方向 N-93°-E 面積 46.44m² 形状等 長方形。東西7.34m、南北6.66m、壁現高65.0cmを測る。床面 非常に堅緻。窓 東壁南寄りから検出され、主軸方向N-106°-Eであり、全長152cm、最大幅120cm、焚口部幅46cmを測る。貯蔵穴 あり。時期 埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。遺物 総数4,734点、そのうち坏8点、蓋2点、甕2点を図示。

H-5号住居跡 (Fig. 10, PL. 2)

位置 X 7・8、Y 0 グリッド 主軸方向 N-89°-E 面積 (5.46) m² 形状等 方形と推定される。東西3.80m、南北 (1.54) m、壁現高51.5cmを測る。床面 非常に堅緻。窓 東壁から検出され、主軸方向N-84°-Eである。貯蔵穴 不明。時期 埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。遺物 総数321点、そのうち坏3点、甕1点を図示。

H-6号住居跡 (Fig.9、PL. 2)

位置 X 9・10、Y 5 グリッド 主軸方向 N-90°-E 面積 (5.72) m² 形状等 方形と推定される。東西(4.68) m、南北(1.62) m、壁現高20.0cmを測る。床面 堅緻。竈 不明。貯蔵穴 不明。時期 埋土や遺物から6世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。遺物 総数63点。

H-7号住居跡 (Fig.10、PL. 2)

位置 X 9・10、Y 2・3 グリッド 主軸方向 N-94°-E 面積 [12.09] m² 形状等 長方形。東西3.30m、南北3.98m、壁現高34.5cmを測る。床面 非常に堅緻。竈 東壁やや南寄りから検出され、主軸方向N-94°-Eであり、全長74cm、最大幅88cm、焚口部幅44cmを測る。貯蔵穴 あり。重複 D-1号土坑と重複しており、新旧関係は本遺構→D-1号土坑である。時期 埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。遺物 総数1,253点、そのうち壺2点、甕1点、石製防錐車1点を図示。

H-8号住居跡 (Fig.11、PL. 2)

位置 X 10・11、Y 4・5 グリッド 主軸方向 N-87°-E 面積 (11.09) m² 形状等 方形と推定される。東西3.74m、南北(3.28) m、壁現高50.5cmを測る。床面 非常に堅緻。竈 東壁から検出され、主軸方向N-83°-Eであり、全長112cm、最大幅96cm、焚口幅38cmを測る。貯蔵穴 不明。時期 埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。遺物 総数238点、そのうち壺1点、高台塊1点、蓋1点、甕1点を図示。

H-9号住居跡 (Fig.11、PL. 2・3)

位置 X 10・11、Y 1・2 グリッド 主軸方向 N-84°-E 面積 [20.21] m² 形状等 長方形。東西4.28m、南北5.14m、壁現高50.5cmを測る。床面 非常に堅緻。竈 東壁やや南寄りから検出され、主軸方向N-88°-Eであり、全長[68] cm、最大幅[74] cm、焚口部幅[54] cmを測る。貯蔵穴 あり。時期 埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。遺物 総数1,636点。そのうち壺9点、高台塊1点、蓋1点、甕6点を図示。

H-10号住居跡 (Fig.12、PL. 3)

位置 X 11・12、Y-0 グリッド 主軸方向 N-86°-E 面積 (6.06) m² 形状等 方形と推定される。東西3.04m、南北(2.08) m、壁現高7.5cmを測る。床面 堅緻。竈 東壁から検出され、主軸方向(N-86°-E)であり、全長104cm、最大幅104cm、焚口部幅30cmを測る。貯蔵穴 不明。時期 埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。遺物 総数28点。

H-11号住居跡 (Fig.12、PL. 3)

位置 X 4・5、Y 0～2 グリッド 主軸方向 N-103°-E 面積 [12.68] m² 形状等 [長方形] 東西[3.56] m、南北4.04m、壁現高22.0cmを測る。床面 堅緻。竈 東壁やや南寄りから検出され、主軸方向(N-95°-E)であり、全長[100] cm、最大幅76cm、焚口部幅24cmを測る。貯蔵穴 検出されず。時期 埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。遺物 総数171点、そのうち壺2点、鉢1点、甕2点、釘1点、鍾1点を図示。

(2) 挖立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡 (Fig.13、PL. 3)

位置 X 4～6、Y 4・5 グリッド 主軸方向 N-81°-E 面積 [11.59] m² 形状等 [長方形] 東西2.02m、南北2間2.50m、東西5尺+6尺+5尺、南北6尺。柱穴 平面は円形と横円形、断面は円筒形とお椀形。径は30～64cm、深さ25.0～47.5cm。時期 埋土から6世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。遺物 本遺構に関する遺物の出土はなかった。

(3) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.15)

位置 X 0、Y 0～5グリッド 主軸方向 N-10°-W 形状等 調査区を南北に走り、W-2・3と交わる。
重複 W-2・3と重複し、新旧関係はW-3→W-2→本遺構の順である。 時期 埋土や出土遺物から6世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。 遺物 総数3点。

W-2号溝跡 (Fig.15)

位置 X 0・1、Y 2～5グリッド 主軸方向 N-7°-W 形状等 調査区を南北に走り、W-1・3と交わる。
重複 W-1・3と重複し、新旧関係はW-3→本遺構→W-1の順である。 時期 埋土や出土遺物から6世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。 遺物 総数38点。

W-3号溝跡 (Fig.15)

位置 X 0、Y 0～2グリッド 主軸方向 N-3°-W 形状等 調査区を南北に走り、W-1・2と交わる。
重複 W-1・2と重複し、新旧関係は本遺構→W-2→W-1の順である。 時期 埋土や出土遺物から6世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。 遺物 総数1点。

(4) 土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.3 土坑計測表、Tab.4 ピット計測表を参照のこと。遺物総数223点、そのうちJD-2号土坑の深鉢1点、JD-4号土坑の深鉢1点、JD-5号土坑の深鉢3点、JD-6号土坑の蓋1点、深鉢13点、打製石斧1点、多孔石1点を図示。

(5) グリッド等出土遺物

総数6,044点。そのうち深鉢68点、浅鉢1点、石錐1点、石錐1点、打製石斧2点、擦石1点、石棒1点を図示。

Tab. 1 穴住居跡計測表

遺構名	位 置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	炉・竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高 (cm)			位 置	構築材		土師器	須恵器	その他
		[長径]	[短径]	(cm)								
J-1	X 1・2 Y 0	(4.56)	(1.20)	7.0	(3.19)	N-90°-E	-	-	-			縄文土器 石器
J-2	X 2・3 Y 1・2	3.41	2.34	12.0	7.41	N-20°-E	-	-	-			縄文土器
H-1	X 2・3 Y 3・4	4.56	2.94	32.5	12.42	N-85°-E	東壁中央	石	-	甕	高台構 羽釜	灰釉高台 塊 瓦石 瓦
H-2	X 3・4 Y 5	(2.42)	(1.54)	24.5	(1.85)	(N-117-E)	-	-	-			
H-3	X 5・6 Y 0	3.68	(1.66)	65.0	(5.79)	N-88°-E	東壁	粘土・石	○		甕	
H-4	X 6~8 Y 0~2	7.34	6.66	65.0	46.44	N-93°-E	東壁南	粘土	○	甕 壺	甕 壺	
H-5	X 7・8 Y 0	3.80	(1.54)	51.5	(5.46)	N-89°-E	東壁	粘土・石	○	甕 壺	甕 壺	
H-6	X 9・10 Y 5	(4.68)	(1.62)	29.0	(5.72)	N-90°-E	-	-	-			
H-7	X 9・10 Y 2・3	3.30	3.98	34.5	[12.09]	N-94°-E	東壁やや南	粘土・石	○	甕 壺	甕	訪録車
H-8	X 10・11 Y 4・5	3.74	(3.28)	50.5	(11.09)	N-87°-E	東壁	粘土・石	○	甕 壺	蓋	高台
H-9	X 10・11 Y 1・2	4.28	5.14	50.5	[20.21]	N-84°-E	東壁やや南	粘土・石	○	甕 壺 小壺	蓋	高台
H-10	X 11・12 Y 0	3.04	(2.08)	7.5	(6.06)	N-86°-E	東壁	粘土・石	-			
H-11	X 4・5 Y 0~2	[3.56]	4.04	22.0	[12.68]	N-103°-E	東壁やや南	粘土・石	-	甕 壺	甕 壺	釘・鍵

Tab. 2 溝跡計測表

遺構名	位 置	高さ (m)	深さ(cm)		上 幅(cm)		下 幅(cm)		主軸方向	断面形
			最大	最小	最大	最小	最大	最小		
W-1	X 0 Y 0~5	[21.92]	78.5	8.0	80	40	49	12	N-10°-W	逆台形
W-2	X 0・1 Y 2~5	[14.89]	48.0	16.5	60	40	30	10	N-7°-W	V字形
W-3	X 0 Y 0~2	[7.54]	32.0	6.0	82	42	50	16	N-3°-W	逆台形

Tab. 3 土坑計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	旧番号	備 考
JD-1	X 1・2 Y 1・2	150	104	45.5	梢円形			
JD-2	X 10 Y 4	156	96	28.0	梢円形	深跡		
JD-3	X 4 Y 2~3	140	78	24.0	長方形			
JD-4	X 3 Y 4~5	[272]	80	42.0	不定形	深跡		
JD-5	X 5・6 Y 2	132	124	136.5	梢円形	深跡		プラスコ状
JD-6	X 3・4 Y 2	[180]	[120]	26.0	[梢円形] 打製石斧	深跡 蓋	O-2	
D-1	X 9・10 Y 2	132	[80]	32.5	[梢円形]			
D-2	X 1 Y 1	250	90	16.0	[長方形]			
D-3	X 3 Y 4	74	62	16.5	梢円形			
D-4	X 0・1 Y 0	92	[58]	45.0	[円形]			
D-5	X 5 Y 3	150	132	29.5	梢円形			
D-6	X 6 Y 5	96	94	35.0	円形			
D-7	X 11 Y 3・4	200	106	19.5	梢円形			
D-8	X 12 Y 3・4	[280]	156	28.0	長方形			
D-9	X 2 Y 0・1	120	110	69.5	円形			

Tab. 4 ピット計測表

造構名	位 置	規 模 (cm)			形 状	造構名	位 置	規 模 (cm)			形 状		
		長 軸	短 軸	深 さ				長 軸	短 軸	深 さ			
P-1	X 1	Y 0	52.0	40.0	17.0	梢円形	P-42	X 7	Y 5	42.0	40.0	24.0	円形
P-2	X 1	Y 0	62.0	59.0	23.0	円形	P-43	X 8	Y 4	44.0	40.0	24.5	円形
P-3	X 3	Y 1・2	70.0	54.0	32.0	梢円形	P-44	X 8	Y 4	40.0	34.0	20.0	円形
P-4	X 3	Y 1	42.0	38.0	40.5	円形	P-45	X 5	Y 3	34.0	30.0	18.5	円形
P-5	X 0	Y 0	48.0	44.0	49.5	円形	P-46	X 4	Y 4	38.0	34.0	16.5	円形
P-6	X 0	Y 1	50.0	50.0	13.5	円形	P-47	X 9	Y 1	50.0	48.0	51.0	円形
P-7	X 0	Y 2	[64.0]	44.0	37.0	[梢円形]	P-48	X 12	Y 3	88.0	78.0	27.5	梢円形
P-8	X 0	Y 2	[56.0]	46.0	38.5	[梢円形]	P-49	X 12	Y 3	46.0	40.0	24.0	梢円形
P-9	X 0	Y 2	50.0	46.0	23.0	円形	P-50	X 10	Y 3	52.0	50.0	18.5	円形
P-10	X 1	Y 0	46.0	40.0	14.0	円形	P-51	X 10	Y 3	52.0	48.0	25.0	円形
P-11	X 1	Y 1	34.0	30.0	13.5	円形	P-52	X 7	Y 3	66.0	56.0	29.0	梢円形
P-12	X 1	Y 1	40.0	38.0	29.5	円形	P-53	X 7	Y 3	36.0	32.0	16.5	円形
P-13	X 1	Y 2	40.0	38.0	29.5	円形	P-54	X 8	Y 4	80.0	64.0	21.0	梢円形
P-14	X 1	Y 2	38.0	32.0	33.0	梢円形	P-55	X 3	Y 3	52.0	36.0	35.5	梢円形
P-15	X 1	Y 2	54.0	34.0	36.0	梢円形	P-56	X 3	Y 3	30.0	26.0	26.0	円形
P-16	X 1・2	Y 2	38.0	34.0	22.0	円形	P-57	X 3	Y 3	54.0	48.0	34.5	梢円形
P-17	X 2	Y 2	60.0	24.0	44.0	不定形	P-58	X 3	Y 3	54.0	44.0	27.0	梢円形
P-18	X 2	Y 2・3	70.0	60.0	35.5	梢円形	P-59	X 4	Y 4	34.0	32.0	29.5	円形
P-19	X 2	Y 1	34.0	32.0	31.0	円形	P-60	X 3	Y 3	28.0	28.0	15.0	円形
P-20	X 2	Y 0	48.0	34.0	20.5	梢円形	P-61	X 5	Y 4	30.0	32.0	14.5	円形
P-21	X 2	Y 0	54.0	48.0	29.5	梢円形	P-62	X 5	Y 4	36.0	34.0	18.5	円形
P-22	X 2	Y 0	36.0	30.0	30.0	梢円形	P-63	X 5	Y 4	48.0	44.0	16.5	円形
P-23	X 2	Y 1	48.0	36.0	45.0	梢円形	P-64	X 2	Y 1	82.0	52.0	38.5	梢円形
P-24	X 4	Y 3	72.0	40.0	32.5	[梢円形]	P-65	X 6	Y 5	70.0	52.0	29.0	梢円形
P-25	X 3	Y 0	24.0	24.0	20.0	円形	P-66	X 6	Y 3	48.0	34.0	38.0	梢円形
P-26	X 3	Y 0	30.0	24.0	30.5	梢円形	P-67	X 6	Y 3	58.0	34.0	28.5	梢円形
P-27	X 3	Y 0・1	28.0	28.0	15.5	円形	P-68	X 6	Y 3	76.0	54.0	20.0	梢円形
P-28	X 4	Y 0	40.0	38.0	18.5	円形	P-69	X 5	Y 3	46.0	38.0	19.5	梢円形
P-29	X 4	Y 0	64.0	46.0	41.5	梢円形	P-70	X 5	Y 3	32.0	30.0	31.5	円形
P-30	X 4	Y 0・1	90.0	60.0	21.5	梢円形	P-71	X 5	Y 3	32.0	30.0	29.0	円形
P-31	X 4	Y 0	50.0	50.0	22.5	円形	P-72	X 4・5	Y 3	36.0	36.0	28.0	円形
P-32	X 4	Y 1	42.0	32.0	20.5	梢円形	P-73	X 5	Y 3	34.0	30.0	30.5	円形
P-33	X 3	Y 3・4	38.0	38.0	41.5	円形	P-74	X 5	Y 3	36.0	36.0	31.0	円形
P-34	X 3・4	Y 4	60.0	52.0	28.0	梢円形	P-75	X 5	Y 4	62.0	42.0	18.0	梢円形
P-35	X 3	Y 4	38.0	34.0	37.0	円形	P-76	X 2・3	Y 4	104.0	72.0	69.5	梢円形
P-36	X 4	Y 4	38.0	32.0	18.5	梢円形	P-77	X 3	Y 4	50.0	42.0	28.5	梢円形
P-37	X 4	Y 3	36.0	34.0	44.0	円形	P-78	X 3	Y 4	34.0	34.0	18.0	円形
P-38	X 6	Y 4	68.0	46.0	24.0	梢円形	P-79	X 3	Y 4	76.0	52.0	27.5	梢円形
P-39	X 7	Y 3	39.0	32.0	40.5	梢円形	P-80	X 3	Y 4	66.0	54.0	31.5	梢円形
P-40	X 6	Y 3	38.0	30.0	17.5	梢円形	P-81	X 3	Y 1	54.0	52.0	39.0	円形
P-41	X 7	Y 3	48.0	44.0	44.0	梢円形							

Tab. 5 細文土器觀察表

番号	鉢形(底)	鉢種	①C口絆 ②側面 ③縦斜材	④土質 ⑤被覆或 ⑥通水度	鉢の特徴・整形・調整技術	目録号	備考	
47	X 5 Y 0	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に則りを施す。	1	縫之内I
48	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	口縫部に円形状の削突が施され、その下に縫位の沈縫施文。		縫之内I
49	X 10 Y 5	深鉢	① - ② -	③ -	④砂利C口縫隙破片	口縫部に円形状の削突を施し、その下に縫位の沈縫施文。	1	縫之内I
50	X 6 Y 5	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤明黄砂利C口縫隙破片	縫帶が貼付され円形状の削突を施す。	20	縫之内I
51	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤明黄砂利C口縫隙破片	口縫部に円錐状の円形文が施され、その左右に沈縫を施す。		縫之内I
52	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤浅黄砂利C口縫隙破片	縫帶施文。		縫之内I
53	X 5 Y 9	深鉢	① - ② -	③ -	④砂利C口縫隙破片	横状把手付。	1	縫之内I
54	X 8 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に縄文LR施文。	55	縫之内I
55	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④砂利C口縫隙破片	口縫部に円錐形の区画内、側面も沈縫で区画内に縄文LR施文。		縫之内I
56	X 7 Y 4	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	直筒状破片。縫位の沈縫を施し、上下左右に竹管による円形削突を施す。		縫之内I
57	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に則りを施す。		縫之内I
58	X 6 Y 2	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	口縫部に円形の区画内が施され、その脇に円形削突を施す。	16	縫之内I
59	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	縄文LR施文後、沈縫を施す。		縫之内I
60	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	口縫部に凹面、その下には縫位の条線施文。		縫之内I
61	X 9 Y 2	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	縄文LR施文後、沈縫を施す。		縫之内I
62	X 7 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	小渡口縫。渡頭部は沈縫と側位を施す。		縫之内I
63	X 8 Y 4	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に縄文LR施文。	4	縫之内I
64	X 9 Y 1	深鉢	① - ② -	③ -	④にごり黄砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に則りを施す。楕円形状の縫帶貼付。	6	縫之内I
65	X 8 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に縄文LR施文。		縫之内I
66	X 8 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④にごり黄砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に縄文LR施文。		縫之内I
67	X 9 Y 4	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤にごり黄砂利C口縫隙破片	縄文LR施文後、蛇行彎文や斜位の沈縫を施す。	4	縫之内I
68	X 4 Y 0	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土・間隙良好 ⑤砂利C口縫隙破片	沈縫による区画内に縄文LR施文。	2	縫之内I
69	X 12 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤にごり黄砂利C口縫隙破片	口縫部は沈縫で区画を施す。その区画内に則りを施す。口縫部下は沈縫による区画内にLR施文。	3	縫之内I
70	X 8 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	4本の沈縫で区画、区画内に縄文LRを充満。		縫之内I
71	X 8 Y 3	注 口 か	① - ② -	③ -	④細粒土・にごり黄砂利C口縫隙破片	縫ぐの字状を呈する。側位の沈縫施文。		縫之内I
72	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	縄文LR施文後、縫位の沈縫施文。		縫之内I
73	X 6 Y 1	深鉢	① - ② -	③ -	④にごり黄砂利C口縫隙破片	表口縫。先端に丸状の彌り、彌りの下部にこぶ状突起附。口縫部に沈縫と刻みを施す。		高井東
74	X 2 Y 4	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	口縫部に本の平行沈縫を施す。その下に斜位の沈縫施文。	1	加賀利B
75	覆土	浅鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	口縫部に安心・地蔵による区画内に縄文LRを施す。裏面は内外とも良好な焼成されている。		加賀利B
76	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	小渡口縫。口縫部に本の3沈縫と2個のこぶ状突起を貼付する。		加賀利B
77	X 6 Y 4	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	沈縫区画内に則りを施す。	24	後期
78	覆土	鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	口縫部に沈縫が施され、縄文施文。		加賀利B
79	覆土	鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	横状沈縫による区画内に則りを施す。裏面にも横状沈縫施文。		加賀利B
80	X 8 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	口縫部に凹面を施す。側部に縫位の沈縫施文。	3	後期
81	覆土	浅鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	斜位の則りを施す。その下に横位の沈縫施文。		加賀利B
82	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	2本の縫帶を施す。		縫之内I
83	X 6 Y 3	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤明黄砂利C口縫隙破片	口縫部に側位の沈縫が施され、その下に縫位の条線施文。		加賀利E
84	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④砂利C口縫隙破片	横状の沈縫に区画内に則りを施す。補修孔有り。		加賀利B
85	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	網代庄筋。		
86	X 2 Y 1	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	網代庄筋。	1	
87	X 3 Y 4	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	網代庄筋。		
88	覆土	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片	網代庄筋。		
89	X 4 Y 0	深鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤明黄砂利C口縫隙破片	渡口縫。背面にU字型の腰壁を貼付。口縫に平行側壁帯を貼付。側壁は沈縫による区画内に縄文LRを施す。	1	称名寺I
90	X 8 Y 3 土製円板	鉢	① - ② -	③ -	④細粒土良好 ⑤砂利C口縫隙破片			

(1) 縫位は、「床直し」床より10cm内の縫位からの検出。「覆土」床より10cmを越える縫位からの検出とした。

(2) 大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を「-」) と記した。

(3) 現存値は、横良・豊良・不良の二段階とした。

(4) 横良は、横良・豊良・不良の一級を意味した。

(5) 色調は土器表面で観察し、色名は新規標準色名(小山・竹原1976)によった。

Tab. 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

6) 調査番号	器種	①CIP	②湖高	③船上	④底成	⑤底面	器種の特徴・整形・調整技術		目録番号	備考
							内面	外側		
1 H-1 床直	須 部	①12.2 - ②4.5	③中軸2.5弱	④	⑤	⑥	輪郭整形、底部：外輪、裏面は輪郭線。口縁部：外反気味、輪郭無で、底部：内輪。内面に凹字	16	無化焰焼成	
2 H-1 床直	須 部	①14.0 - ②5.6	③中軸2.5弱	④	⑤	⑥	輪郭整形、底部：内反気味。口縁部：外反気味、輪郭無で、底部：内輪。内面に凹字	24	無化焰焼成	
3 H-1 床直	須 部	①12.4 - ②5.7	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形、底部：外輪、口縁部：外反気味、輪郭無で、底部：内輪。内面に凹字	20		
4 H-1 床直	須 部	①18.3 - ②5.6	③中軸2.5弱	④	⑤	⑥	輪郭整形、底部：外輪、口縁部：外反気味、輪郭無で、底部：内輪。内面に凹字	4		
5 H-1 床直	須 部	①17.7 - ②20.9	③中軸3.5	④	⑤	⑥	底部：内輪。内面に凹字。下部には輪郭。斜めの底削り。中央部に輪郭	26ほか		
6 H-1 床直	須 部	①15.3 - ②5.6	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：上半部は横部の底削り。口縁部：凹の字すれ。横削で。内面無	15		
7 H-1 床直	須 部	①15.3 - ②5.6	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪。内面無	30		
8 H-3 床直	須 部	①12.2 - ②3.7	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形、底部：外輪、外側に舟形輪。口縁部：外傾、輪郭無で。底部：内輪。底部：底削り。内面に凹字	12		
9 H-4 床直	須 部	①11.4 - ②2.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：直立、無で。底部：浅い丸底。内面無	39		
10 H-1 床直	須 部	①11.9 - ②3.1	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪。口縁部：外傾。輪郭無で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	35ほか		
11 H-4 床直	須 部	①12.2 - ②3.1	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内西味、底削。口縁部：外傾気味、横削で。底部：平底気味。底削り後無で。内面無	30ほか		
12 H-1 床直	須 部	①12.6 - ②3.5	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪。口縁部：直立、横削で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	16		
13 H-4 床直	須 部	①13.3 - ②3.7	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：直立、横削で。底部：浅い丸底。中心に凹み、底削り後無。内面無	88		
14 H-4 床直	須 部	①14.6 - ②3.7	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：直立、無で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	83		
15 H-4 床直	須 部	①14.8 - ②3.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、底削り後無。口縁部：外反、横削で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	123		
16 H-4 床直	須 部	①17.2 - ②3.4	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形。底部：外輪、口縁部：外傾。輪郭無。底部：回転切削。内面無	126		
17 H-4 床直	須 部	①15.8 - ②2.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形。大井型：影らみを持ちながら横削。輪郭無。口縁部：浅い丸底。内面無	29		
18 H-4 床直	須 部	①15.2 - ②2.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形。大井型：影らみを持ちながら横削。輪郭無。口縁部：浅い丸底。内面無	57		
19 H-4 床直	須 部	①20.6 - ②5.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：上半部は縦・斜削の底削り後底押し。口縁部：外反、横削で。内面無	56		
20 H-4 床直	須 部	①12.8 - ②5.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：上半部は縦の底削り。口縁部：外傾、横削で。内面無	148		
21 H-5 床直	須 部	①13.8 - ②4.1	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、底削り後無で。口縁部：直立、横削で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	26		
22 H-5 床直	須 部	①13.0 - ②3.6	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：直立、横削で。内面無	18ほか		
23 H-5 床直	須 部	①13.0 - ②3.6	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：回転差引底削り調製。不明字の墨書き。	8ほか		
24 H-5 床直	須 部	①16.7 - ②12.0	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：上半部は斜削の底削り。口縁部：凹の字、横削で。内面無	5		
25 H-7 床直	須 部	①17.2 - ②20.1	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、底削り後無。口縁部：外反、横削で。底部：平底気味。底削り後無で。内面無	9		
26 H-7 床直	須 部	①13.2 - ②3.7	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形。底部：外輪、裏面は輪郭線。口縁部：外傾、輪郭無で。底部：内輪。底削り後無で。内面無	41		
27 H-7 床直	須 部	①19.8 - ②8.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：上半部は横部の底削り。口縁部：凹の字、横削で。内面無	17ほか		
28 H-8 床直	須 部	①15.0 - ②4.4	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：内傾気味、横削で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	27		
29 H-8 床直	須 部	①17.8 - ②4.7	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：回転差引まみしめ立高台。	3		
30 H-8 床直	須 部	①19.6 - ②2.8	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：天井型：影らみを持ちながら横削。輪郭無。つまみ欠損。口縁部：浅い丸底。	3		
31 H-8 床直	須 部	①25.0 - ②24.2	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：斜削の底削り。口縁部：凹の字、横削で。内面無。	17ほか		
32 H-9 床直	須 部	①11.6 - ②3.2	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：内輪、横削で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	19ほか		
33 H-9 床直	須 部	①11.8 - ②4.3	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、底削り後無で。口縁部：外傾、強い横削。底部：浅い丸底。足部と底削り後無。内面無	81		
34 H-9 床直	須 部	①15.6 - ②4.2	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、足部と底削り後無。足部と底削り後無。内面無	58		
35 H-9 床直	須 部	①12.1 - ②3.4	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：直立、横削で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	111		
36 H-9 床直	須 部	①12.1 - ②3.0	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無。口縁部：直立、横削で。底部：浅い丸底。底削り後無で。内面無	53ほか		
37 H-9 床直	須 部	①14.2 - ②4.0	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、底削り後無で。二つの段を持つ。口縁部：外傾、強い横削。足部：平底気味。底削り後無で。内面無	80		
38 H-9 床直	須 部	①15.6 - ②4.2	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、底削り後無で。口縁部：内傾気味、横削で。底部：浅い丸底。足部と底削り後無。内面無	13ほか		
39 H-9 床直	須 部	①17.4 - ②3.8	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：外輪、底削り後無で。口縁部：外反、横削で。底部：浅い丸底。足部と底削り後無。内面無	9		
40 H-9 床直	須 部	①17.2 - ②4.0	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形。底部：外輪、口縁部：外傾、輪郭無。底部：回転差引	76	外輪一部傾斜	
41 H-9 床直	須 部	①11.3 - ②3.4	③中軸4.0	④	⑤	⑥	輪郭整形。底部：外輪、口縁部：外傾、輪郭無。底部：回転差引後削り。内面無	1		
42 H-9 床直	須 部	①18.0 - ②22.9	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：天井型：影らみを持ちながら横削。リング状つまり、輪郭無。口縁部：天井型：影らみを持ちながら横削。リング状つまり、輪郭無。内面無	116		
43 H-9 床直	須 部	①14.2 - ②3.1	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：内輪、底削り後無で。下半部は底削りの底削り。口縁部：やや外傾、強い横削。底削り後無で。内面無	76	外輪一部傾斜	
44 H-9 床直	須 部	①16.4 - ②14.8	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：横の底削りの底削り後無で。口縁部：やや外傾、強い横削。内面無	77	外輪一部傾斜	
45 H-9 床直	須 部	①20.7 - ②21.1	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：縦・斜削の底削り。口縁部：強い外傾、強い横削。内面無	78	外輪一部傾斜	
46 H-9 床直	須 部	①19.0 - ②23.6	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：横・斜削の底削り。口縁部：外反、強い横削で。底部：浅い丸底。内面無	80ほか	外輪一部傾斜	
47 H-9 床直	須 部	①23.0 - ②8.1	③中軸4.0	④	⑤	⑥	底部：上半部は斜削の底削り。口縁部：くの字、横削で。内面無	52		

番号	鉢形・底	器種	①口径	②脚高	③底土 ④地盤	⑤地盤或 ⑥底面度	器種の特徴・整形・調整技術		登録番号	備考
							脚部	底面度		
48	H-9 窓内	土器 甕	①(3.6) ②(15.3)	③明治好 ④(3.6)	⑤明治好4脚部 一部~底部	⑥縦断部 窓内	体部：中央部は斜面、下部は横筋の対面り。下部に輪郭線。底 部：縫隙、内面剥離。	底面：窓部の剥削り、上部に指圧痕。口縁部：外反。横撇で。内面 無し。	157	
49	H-9 窓内	土器 甕	①(22.5) ②(17.3)	③明治好 ④(3.6)	⑤明治好4脚部 一部~底部	⑥縦断部 窓内	体部：窓部の剥削り、上部に指圧痕。口縁部：外反。横撇で。内面 無し。	底面：窓部の剥削り、上部に指圧痕。口縁部：外反。横撇で。内面 無し。	158	
50	I-11 床直	頭 甕	①(12.2) ②(29.6)	③明治好 ④(3.6)	⑤明治好2脚好 ⑥縦断部 窓内	⑦縦断部 窓内	縦断部剥離形。体部：内側、外面に墨。口縁部：外反。縦撇無。底 部：縫隙、内面剥離。	底面：縫隙、内面剥離。	11	輪郭化焼成、 内外面黒色地
51	H-11 窓内	頭 甕	①(15.0) ②(4.3)	③明治好2脚好 ④(3.6)	⑤明治好4脚部 窓内	⑥縦断部 窓内	体部：内面剥離、窓部剥離無。口縁部：外傾、横撇で。底部欠損。 内面剥離。	底面：内面剥離。	1	
52	H-11 床直	頭 甕	①(11.8) ②(2.9)	③明治好2脚好 ④(3.6)	⑤明治好4脚部 一部~底部	⑥縦断部 窓内	体部：内面剥離、窓部剥離無。口縁部：外反。縦撇無。	底面：内面剥離。	6	
53	H-11 床直	頭 甕	①(13.4) ②(3.9)	③明治好2脚好 ④(3.6)	⑤明治好4脚部 一部~底部	⑥縦断部 窓内	体部：内面剥離形。口縁部：外反50%。縦撇無。底部欠損。	底面：内面剥離。	3ほか	
54	H-11 床直	土器 甕	①(2.9) ②(4.0)	③明治好2脚好 ④(3.6)	⑤明治好4脚部~底部	⑥縦断部 窓内	体部：窓部の剥削り。内面剥離。	底面：内面剥離。	5	

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出。「覆土」：床面より10cmを越える層位からの検出とした。
 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

③地盤は、表面土・中層・底層の3段階とした。

④地盤は、極良・良好・不良の3段階とした。

⑤色調は土器表面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 7 石器観察表

番号	造構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
1	J-1・床直	石 錐	3.7	1.5	0.5	2.1	黑色頁岩	完形	2	有茎
2	JD-6・覆土	打製石斧	6.7	5.8	2.5	94.0	頁 岩	1/2	37	分銅形
3	JD-6・床直	四	石 10.7	9.0	3.7	397.0	安 山 岩	ほぼ完形	44	剛に直一部残
4	X 8 Y 4	擦 石	16.4	5.9	4.3	696.0	安 山 岩		2	
5	覆土	石 錐	(1.6)	(1.5)	0.4	0.6	黑 曙 石	先端部欠損	H-4N118	無茎
6	覆土	石 錐	(2.8)	(0.7)	0.4	1.2	黑色頁岩	先端部残存	覆土	
7	覆土	打製石斧	(11.1)	7.0	2.8	118.0	黑色頁岩	3/4	P-28	分銅形
8	覆土	打製石斧	(5.6)	(4.7)	(1.3)	46.6	黑色頁岩	末端部残存	覆土	短冊形
9	覆土	多 孔 石	12.3	10.6	6.3	950.0	安 山 岩	完形		蜂の巣孔
10	X 6 Y 4	石 棒	(35.2)	(19.5)	(17.2)	13600.0	綠泥片岩	一部残存	31	

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出。「覆土」：床面より10cmを越える層位からの検出とした。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab. 8 石製品観察表

番号	造構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
1	H-1・床直	砥 石	(7.0)	(5.4)	(3.5)	115.0	凝灰岩	一部残存	5	全面使用
2	H-1・床直	砥 石	9.4	4.0	3.1	153.0	凝灰岩	完形	8	4面使用
3	H-7・床直	紡 車	上径(3.3)下径 (5.2)孔径(0.7)	(1.6)	24.0	凝灰岩	1/2強残存	68		

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出。「覆土」：床面より10cmを越える層位からの検出とした。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab. 9 鉄製品観察表

番号	造構・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺存度	登録番号	備考
1	H-1・床直	角 釘	(2.8)	(0.5)	(0.6)	3.4	一部残存	14	L字状に屈曲
2	H-1・床直	刀 子	(9.3)	(1.5)	(0.2)	18.4	ほぼ完形	19	
3	H-11・覆土	角 釘	(4.3)	(1.4)	(0.6)	6.5	一部残存	7	L字状に屈曲
4	H-11・覆土	鍼	(14.8)	(2.5)	(0.3)	44.2	ほぼ完形	12	

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出。「覆土」：床面より10cmを越える層位からの検出とした。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

VII まとめ

今回の調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒・土坑6基、古墳～平安時代の竪穴住居跡11軒・土坑9基・掘立柱建物跡1棟・ピット81個が検出された。縄文時代と古墳～平安時代の2つに分けてまとめとしたい。

1 縄文時代

(1) 竪穴住居跡

2軒の竪穴住居跡は、出土遺物から縄文時代後期前半の堀之内I式期の所産である。遺構の確認は、困難を來したため、確認面から床面まで10cm前後の浅い床面の検出となつた。本遺跡については、従来から後期中葉の堀之内、加曾利B式期の遺跡として知られて来た。昭和40年代の群馬用水建設に伴う調査では、西側の低地から後期中葉の包含層が検出されたのみに留まつてゐるため、今回の調査で集落の一端を解明できた事は大きな成果であった。今後、集落の広がりや時期的な変遷を解明していく必要が生じた。

(2) 土 坑

6基調査した土坑のうち、顕著な遺物が見られたものとしては、JD-5、6号土坑が挙げられる。

JD-5号土坑はプラスコ状土坑である。プラスコ状土坑は、一般的に東北南部から東関東地方にかけての遺跡で縄文前期から中期の半ばに盛行をみせる。その用途は、口がすぼまるといった形態的な特徴などから貯蔵穴と想定されている。なお、本土坑は出土遺物から称名寺I式期の所産であることから、一般的事例からみると後出するものといえよう。

JD-6号土坑は加曾利E4式～称名寺I式期の所産とされるものである。従来から加曾利E4式と称名寺I式は共伴事例が良く知られるところである。2型式の混在は、time over the lapの原則で成立する縄文土器編年の再考を促すものと考らえることが出来よう。また、16の土器は、文様構成や幅広で深く刻まれた沈線から西日本の土器型式である中津式土器の影響を受けたものと考えられる。市内では青梨子町熊野谷遺跡1住や市之闇町前田遺跡36住で検出されている。また、芳賀北曲輪遺跡22住では東北地方の影響を受けた土器の出土もみられるところから、中期から後期へと変革する時期の土器群のあり方を示している。

また、10の土器は、ほぼ復元出来た優品である。4単位の大波状口縁には大突起→小突起→中突起→小突起が付けられ、大と中、小と小が向かいあって構成される。口縁部無紋帶は微隆起区画を用い、胴部には沈線によって文様が描出される。市内小神明遺跡群で出土した土器や熊野谷遺跡と同類型として捉えられるものである。関東地方全域にわたって存在することから一度、加曾利E式や称名寺式とは分別して整理を行ってみる必要のある土器と考えられる。

このように、本土坑出土の土器群の様相から、後期初頭の土器が抱える問題を垣間見ることができた。

(3) 遺物包含層

包含層から出土した土器は、前期後半の諸磯b・c式、中期初頭の五箇ヶ台式、中期末の加曾利E4式、後期の称名寺式、堀之内式、加曾利B式、高井東式土器などが認められた。この中でも、fig.18-26・27は文様構成から北陸地方の前期後半を代表する土器型式である鍋屋町式土器の影響を受けたものと考えられる。ただし、鍋屋町式土器の特徴とみられる結節状浮線はみられないものの文様構成や胴部の羽状繩文はその特徴を表している。

また、石製品として多野藤岡地域に分布する結晶片岩を加工した無頭石棒が出土した。風化が著しかったため、取り上げは困難であったが径17cmを超える大形品であった。直線距離で20kmを超える多野藤岡地域から搬入されたものであり、結晶片岩への深い執着を感じることができる。

2 古墳・奈良・平安時代

(1) 集落の変遷

竪穴住居跡は、時期で分けると次のようになる。6世紀後半が2軒（H-4・9号住居跡）、8世紀中葉が4軒（H-3・5・8・10号住居跡）、9世紀代が2軒（H-7・11号住居跡）、10世紀前半が1軒（H-1号住居跡）、時期不明が2軒（H-2・6）である。主軸方向、規模について下表にまとめた。

Tab.10 古墳・奈良・平安時代竪穴住居跡時代別比較表

時 期	主 軸 方 角	東西 (m)	南北 (m)	面積 (m ²)
6世紀後半	N-84~93-E	4.28~7.34	5.14~6.66	20.21~46.44
8世紀中葉	N-86~89-E	3.04~3.80	※	※
9世紀代	N-94~103-E	3.30~3.56	3.98~4.04	12.09~12.68
10世紀前半	N-85-E	4.5	2.94	12.42

※…3軒とも現存値であったため、省略した。

6世紀から10世紀にかけて、およそ真東に近い向きに住居が造られている。中でも8世紀中葉の3住居では、ほとんど同じ向きで、本遺跡地の北端に、等間隔で同一線上に位置している。同一時期に生活していたことが窺える。

住居の規模を見ると、古墳時代には大型住居が造られ、時代が下るにつれて規模が小さくなってきてている。また、形も正方形あるいは南北に長い住居跡から東西に長い住居跡へと変化していくことが、本遺跡地から垣間見ることができる。

6世紀後半には調査区の中央（H-4・9号住居跡）に、8世紀中葉には調査区北側（H-3・5・10号住居跡）と南側（H-8号住居跡）に、9世紀～10世紀にかけては、再び調査区中央（H-1・7・11号住居跡）に集落が形成されていったことが窺える（Fig.5 遺跡全体図参照）。

(2) 焼失住居

H-1号住居跡は貴重な焼失住居である。住居内北西側がやや少ないものの、全体的に非常に良好な状態で炭化材が70本（破片も含む）程検出された。自然の丸木を使用しており、多くは垂木とみられるが、Yの字状の又柱や榊木も見つかった。すべて炭化材は芯まで焼けており、故意に焼失させたと想定できる。しかもこれほどまでの良好な残存状態は、葺き材（藁など）を厚くした上で土葺きをしっかり行っていたことが考えられる。またほぼ住居内全体に残存していて若干北西側の残存状態が悪いことは、弱い北西の風の中、北西隅に点火したと想定される。炭化材の下から焼土と炭が検出され、炭化材の間から、L字状に屈曲した釘が出土した。竈構築は、石で囲み、その内側を粘土で被覆され、多くの焼土が検出された。竈内からは、酸化焰焼成の高台塊、甕、羽釜などが出土した。

(3) そのほかの住居跡

H-4号住居跡は、大型で古墳時代後期（6世紀後半）の住居跡と想定される。竈は固い粘土で被覆され、残りのよい煙道を検出することができた。H-9号住居跡は、床面近くから、甕、高台塊、蓋、甕等、完形あるいはそれに近い遺物が多数出土した。

3 最後に

本遺跡は、縄文時代前期～後期、6世紀後半～10世紀の時代において、連綿と人々が生活してきた土地である。以前の東矢次遺跡I・II遺跡での調査をさらに発展させるものとなった。今後の調査に期待したい。

参考文献

- 前原豊・都所敬尚編『熊野谷遺跡』前橋市教育委員会 1989
- 縄文セミナーの会編『第4回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』 1990
- 細野高伯編『藤毛石中山遺跡』宮城村教育委員会 1996
- 小林達雄編『縄文土器の編年と社会』 1999
- 鈴木徳雄『称名寺式終末期と装飾帯の変化—所謂「1文様帶」の形成と瓶之内1式～群馬考古学手帳10』 2000
- 小林達雄『縄文土器の研究〈普及版〉』 2002
- 石守晃『既失実験と関東北部の既失住居～考古学ジャーナル』 2003
- 佐々木義則『武田西頓遺跡 京良・平安時代編』ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 2002
- 小川卓也編『藤毛石赤坂遺跡』宮城村教育委員会 2004
- 小川卓也編『市之間前田遺跡II』前橋市教育委員会 2005
- 高橋亨・高坂麻子編『元経社蒼荷遺跡群(5)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006
- 宮本長二郎『日本の美術 第490号 出土建築部材が解く古代建築』至文堂 2007

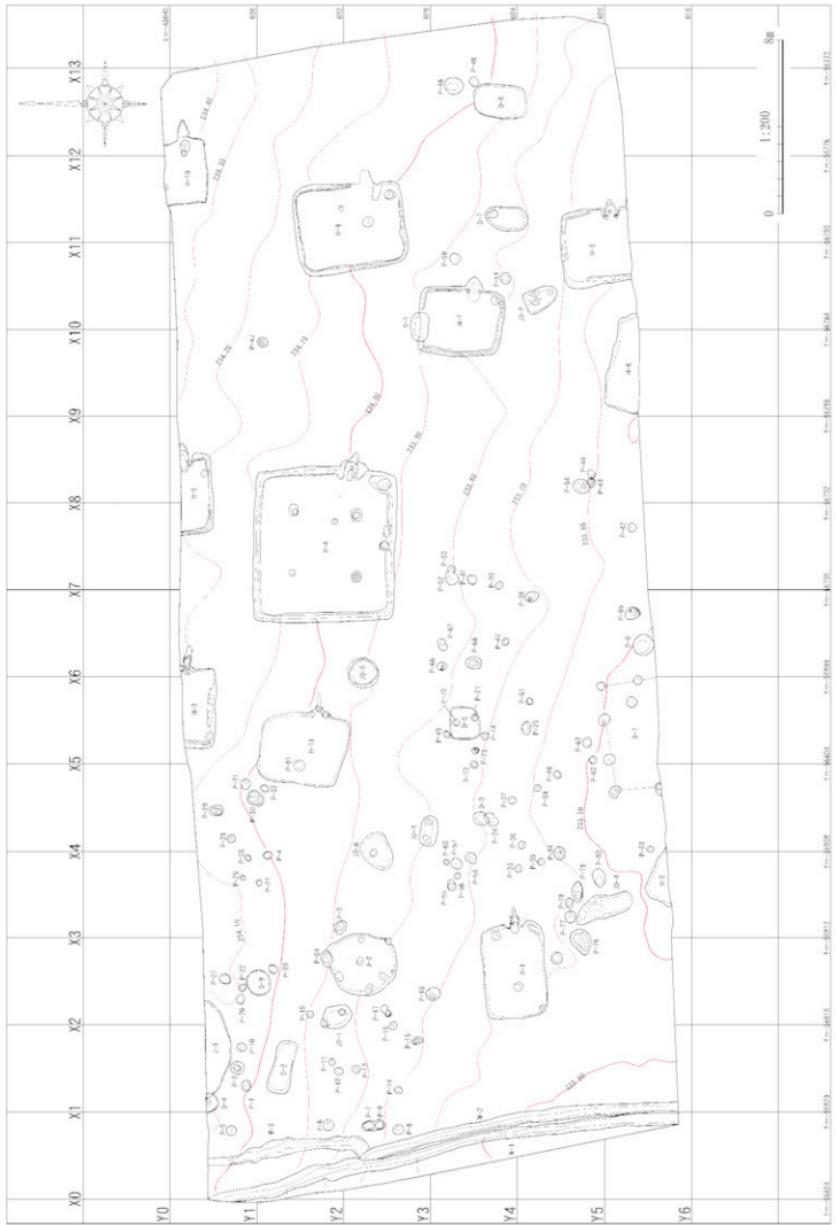
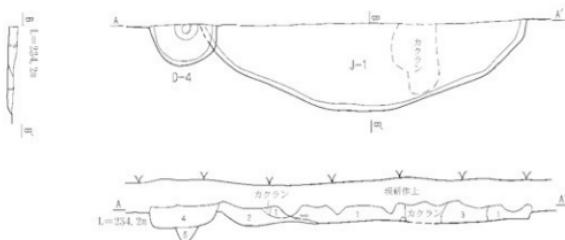


Fig. 5 遺跡全体図



J-1号住居跡 D-4号土坑跡 ベルトセクション
 1 黒 細 ○○ ロームブロック 3%、白色軽石 1%
 2 黒褐 細 ○○ As-C・Hr-FA 3%、ロームブロック 20%
 3 黒褐 細 ○○ Hr-FA 1%、ロームブロック・ローム粒 5%
 4 黒褐 細 ○○ As-C・Hr-FA 1%，ロームブロック・ローム粒 2% (D-4)
 5 喧褐色 細 ○○ As-C・Hr-FA 1%，ロームブロック・ローム粒 3% (D-4)

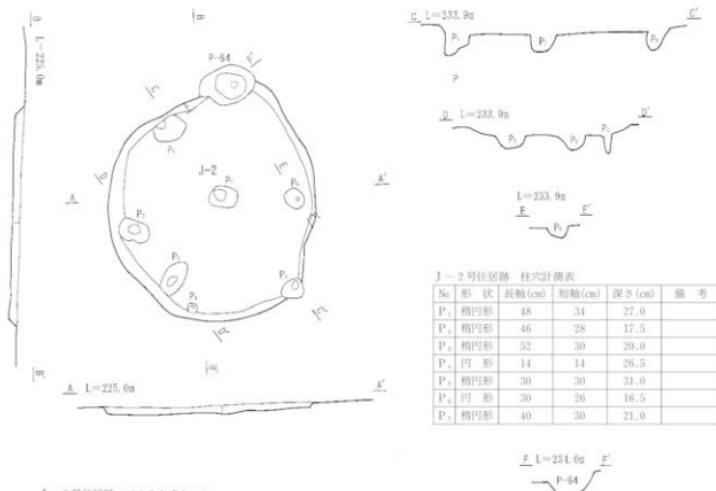
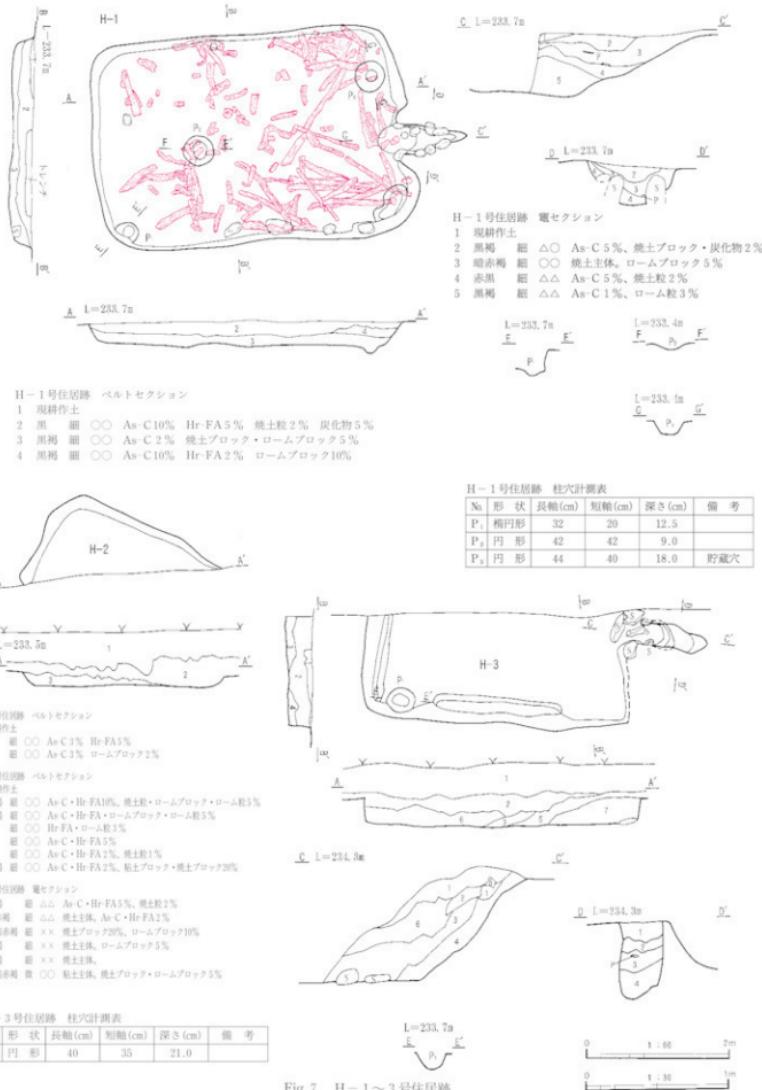


Fig. 6 J-1・2号住居跡、D-4号土坑



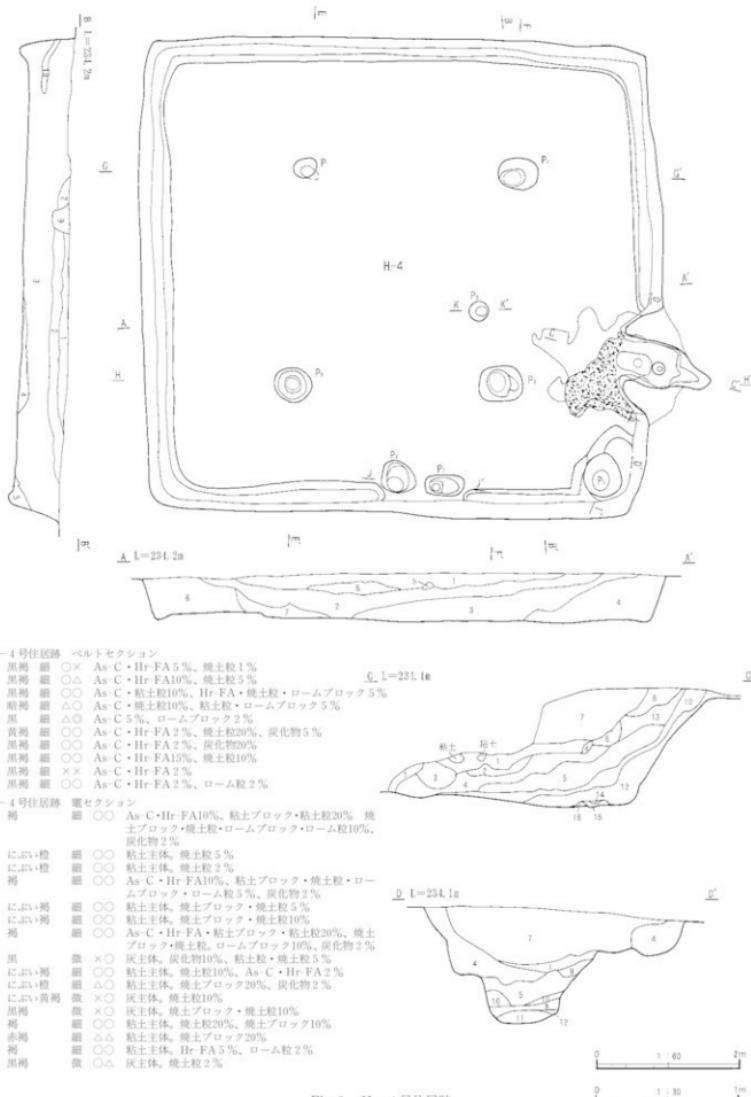
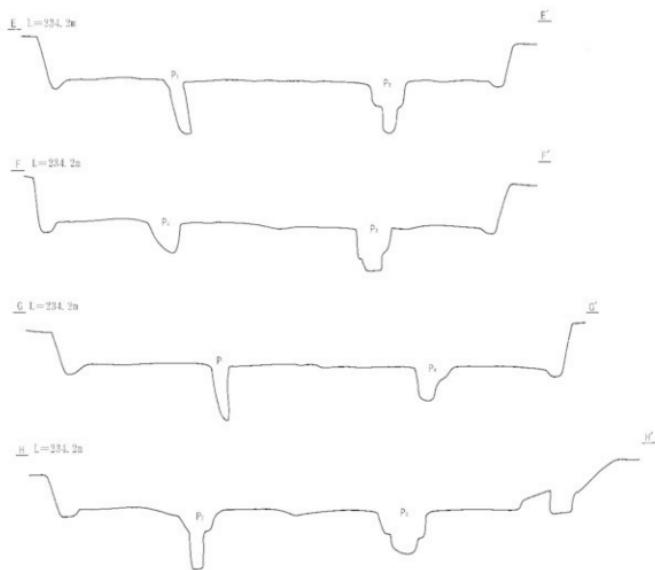


Fig. 8 H-4号住居跡

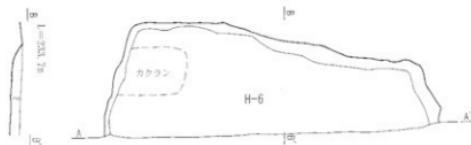


\perp L=233.4m \perp'

\perp L=233.3m \perp'

L=233.4m \perp

No.	形 状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
P ₁	梢円形	32	26	74.0	
P ₂	円 形	52	48	76.0	
P ₃	梢円形	60	50	57.5	
P ₄	梢円形	54	44	41.5	
P ₅	梢円形	108	60	21.5	貯藏穴
P ₆	梢円形	50	40	41.5	
P ₇	長方形	54	30	62.5	
P ₈	円 形	28	28	11.0	



H-6号住居跡 ベルトセクション

- 1 規耕作土
- 2 黒 褐 細 ○△ As-C・Hr-FA10%
- 3 黒褐 細 ○○ As-C 3%



0 1 : 60 10m

Fig. 9 H-4・6号住居跡

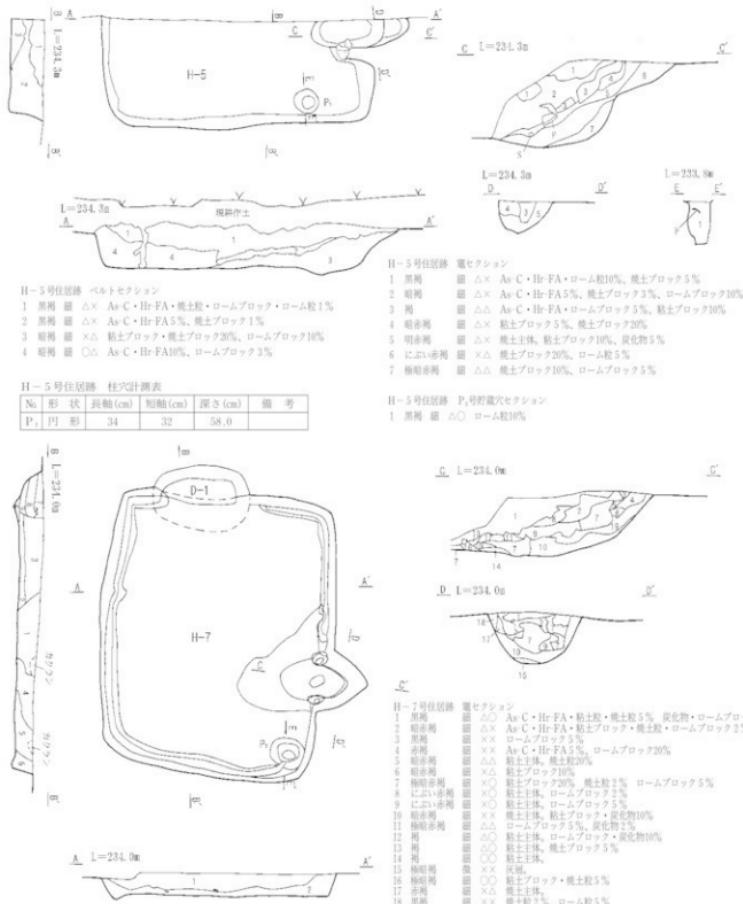
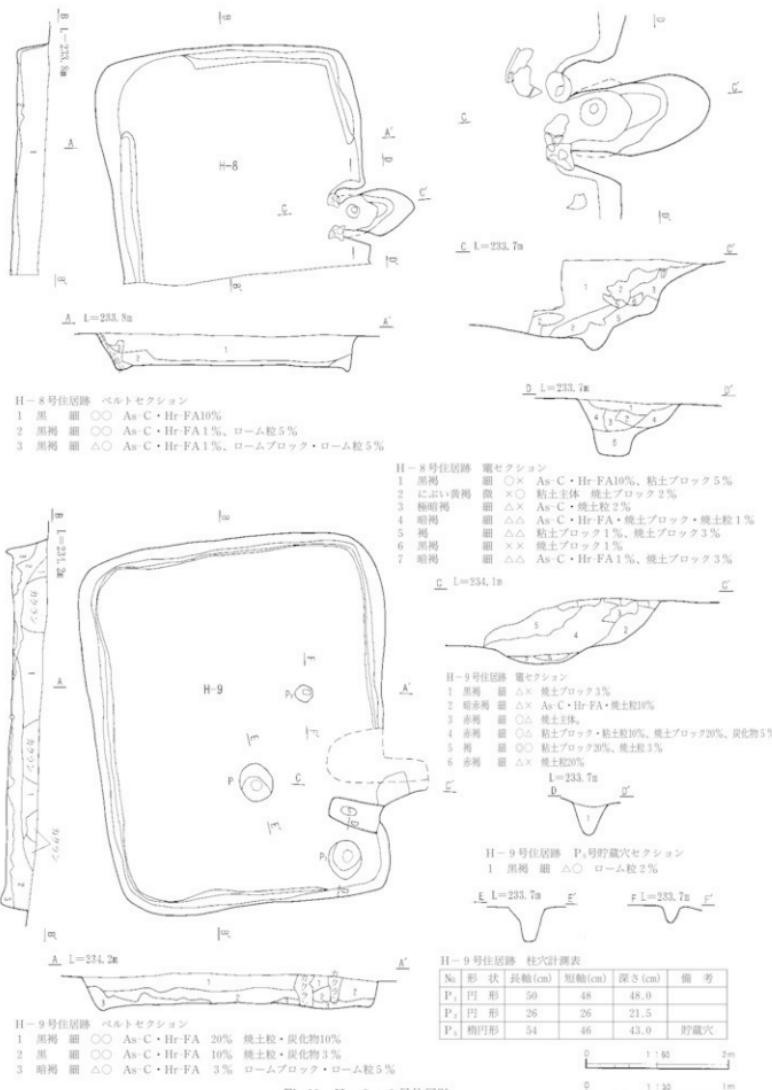


Fig.10 H-5・7号住居跡、D-1号土坑



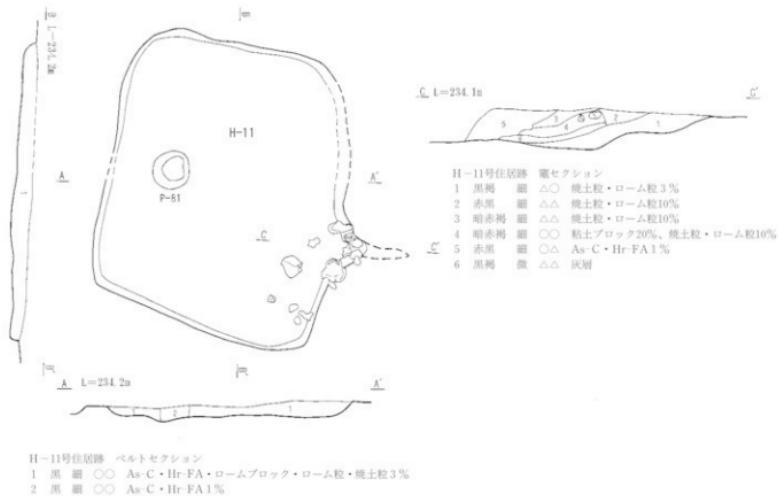
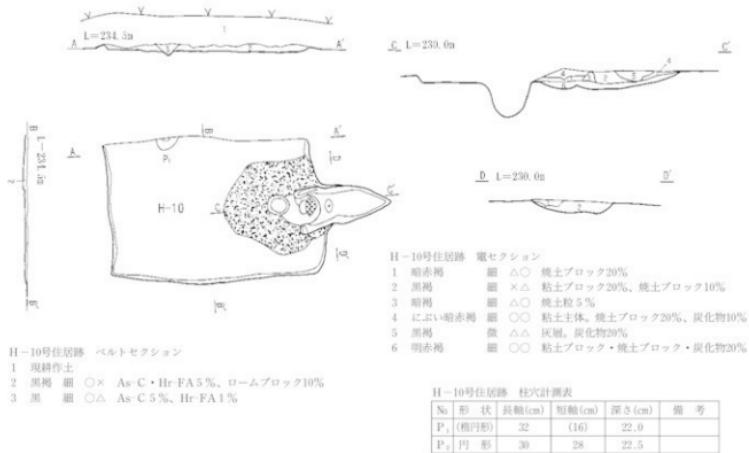


Fig.12 H-10・11号住居跡

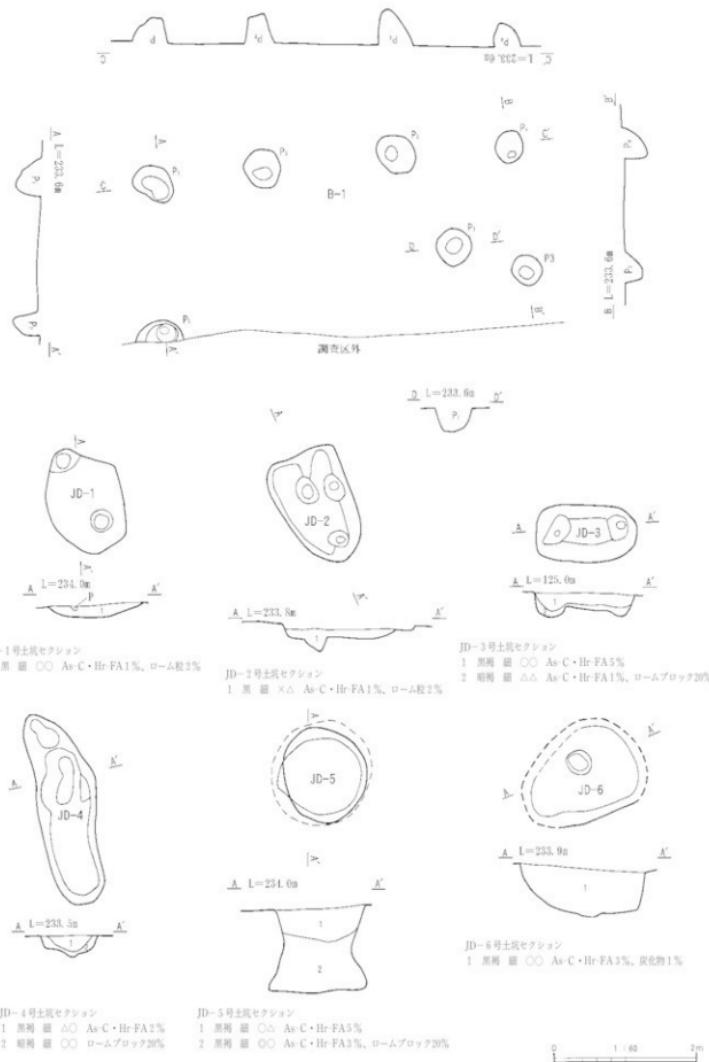
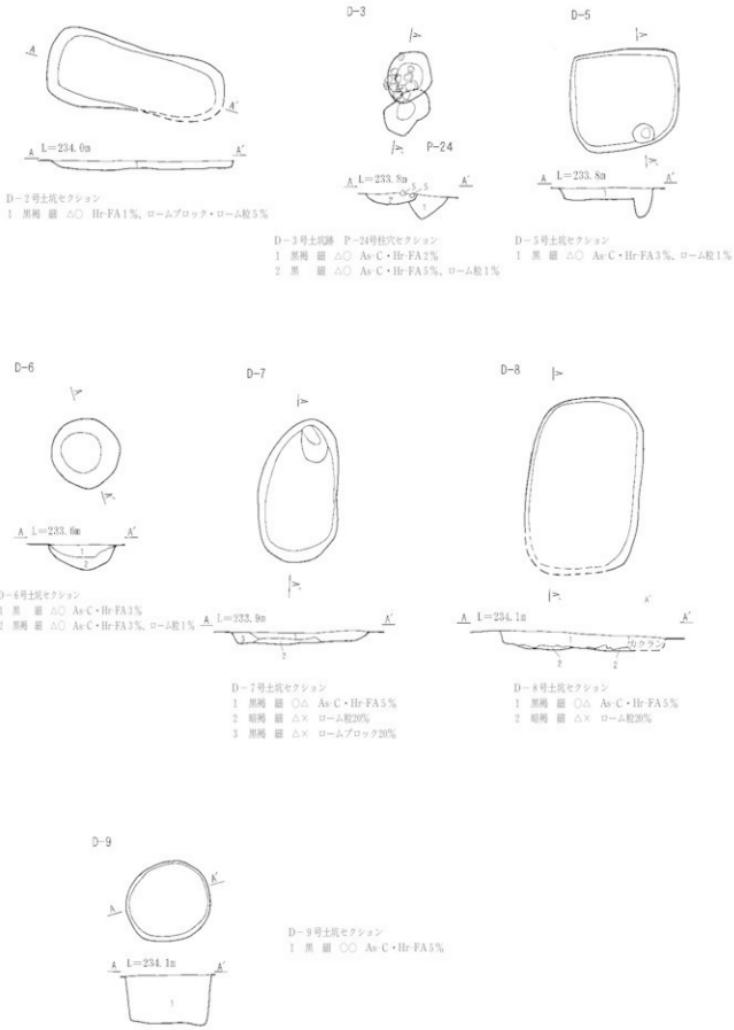


Fig.13 B-1号掘建柱建物跡、JD-1～6号圓形土坑



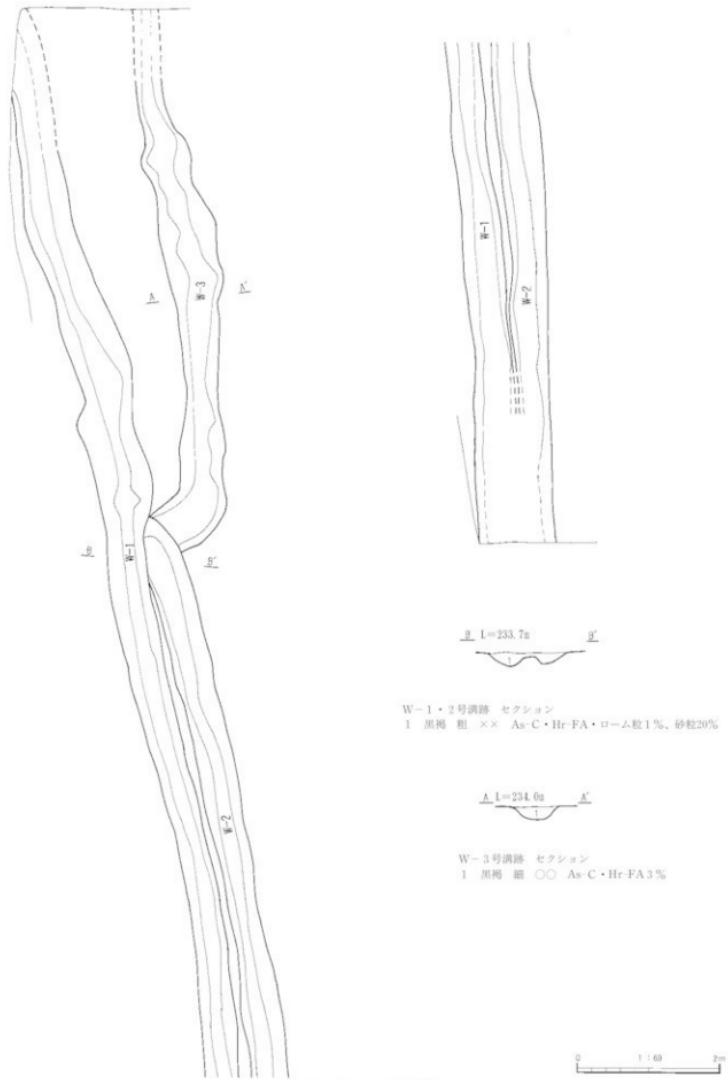


Fig.15 W-1 ~ 3号調跡

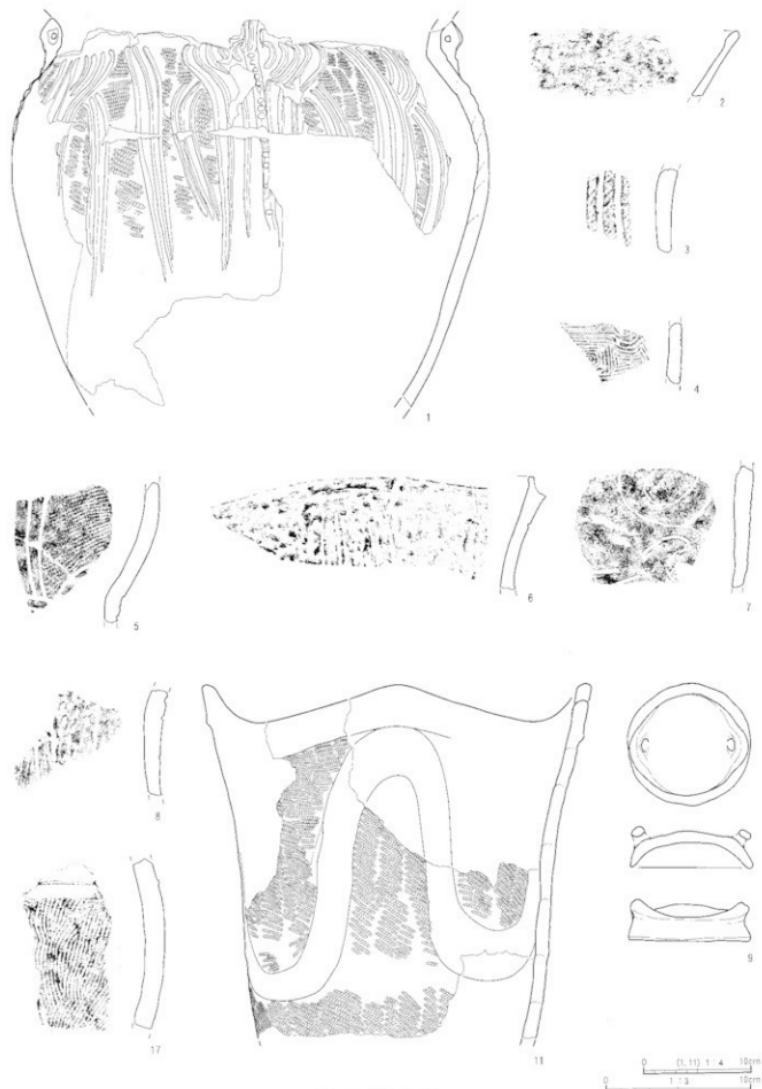


Fig.16 圖文土器

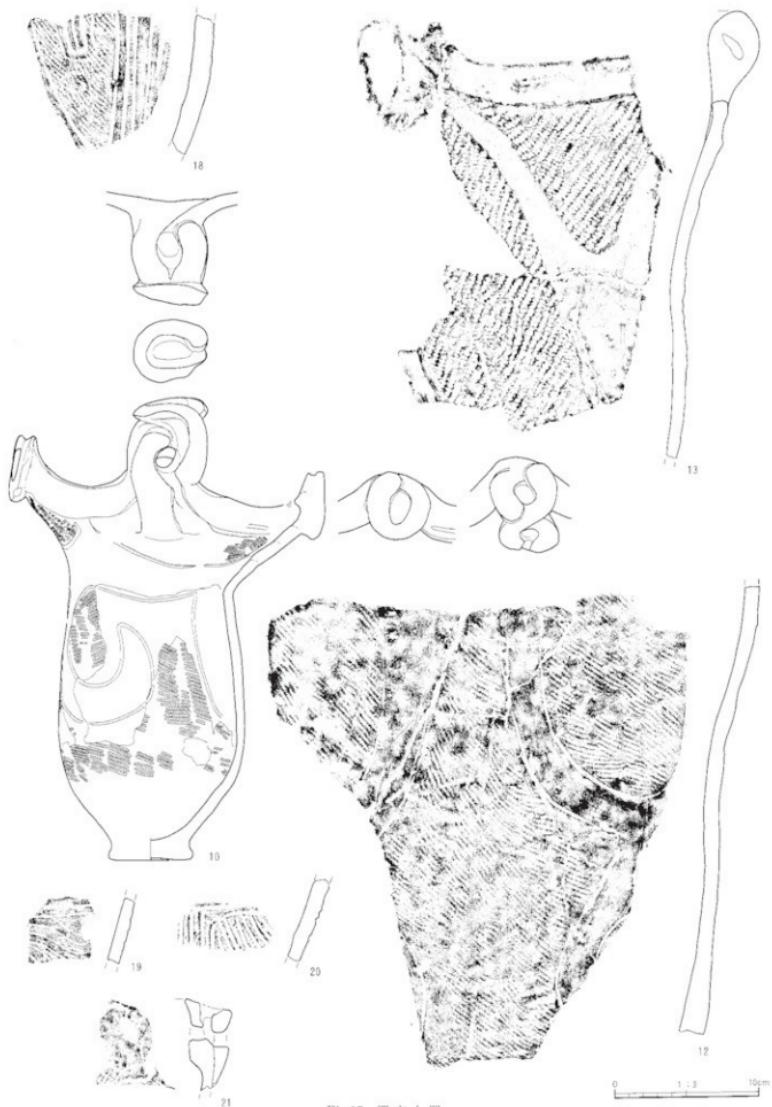


Fig.17 圖文土器

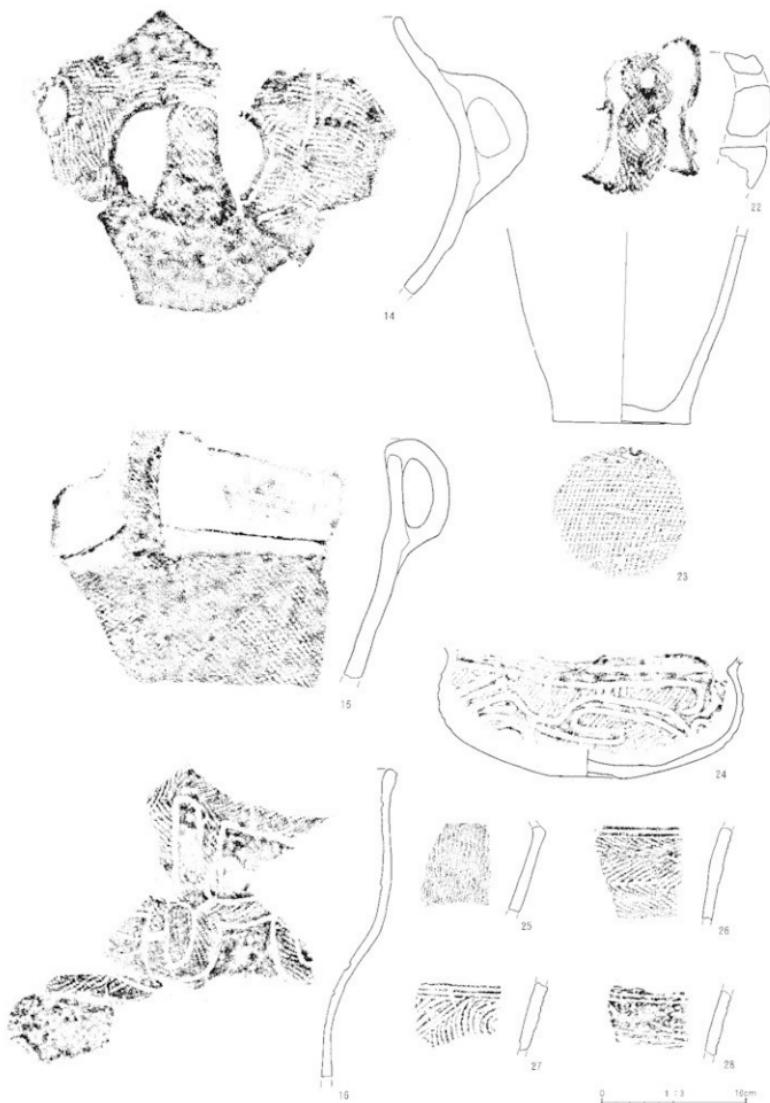


Fig.18 鴻文土器



Fig.19 圖文土器



Fig.20 開文土器

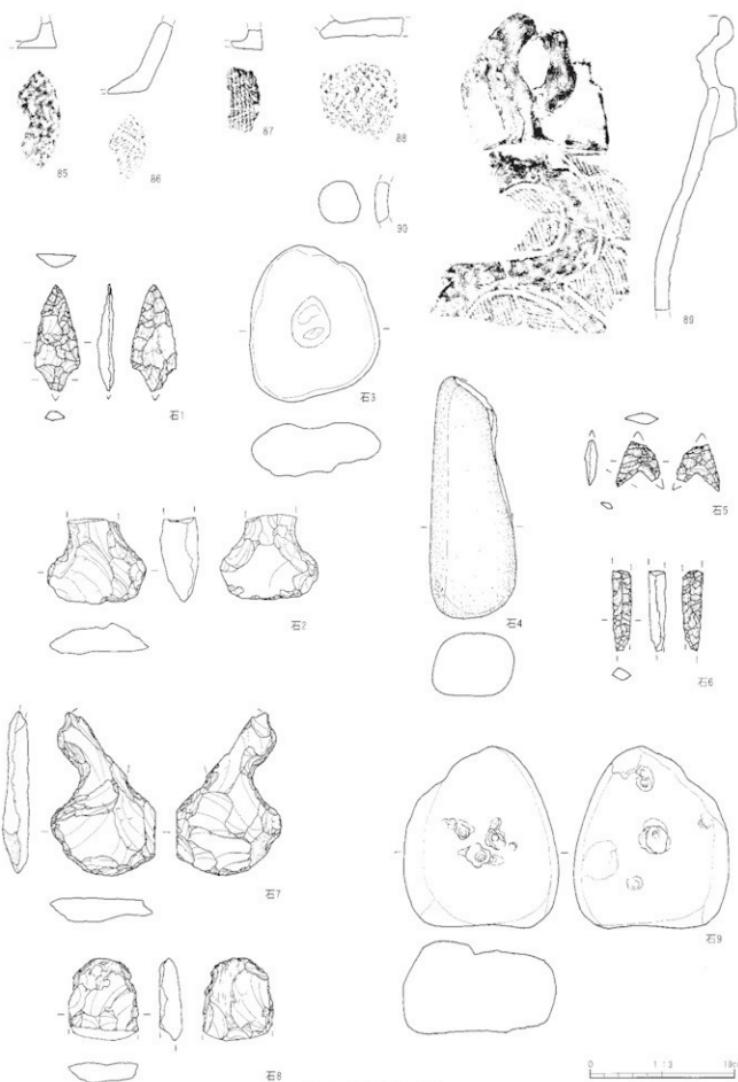


Fig.21 麦文土器・石器

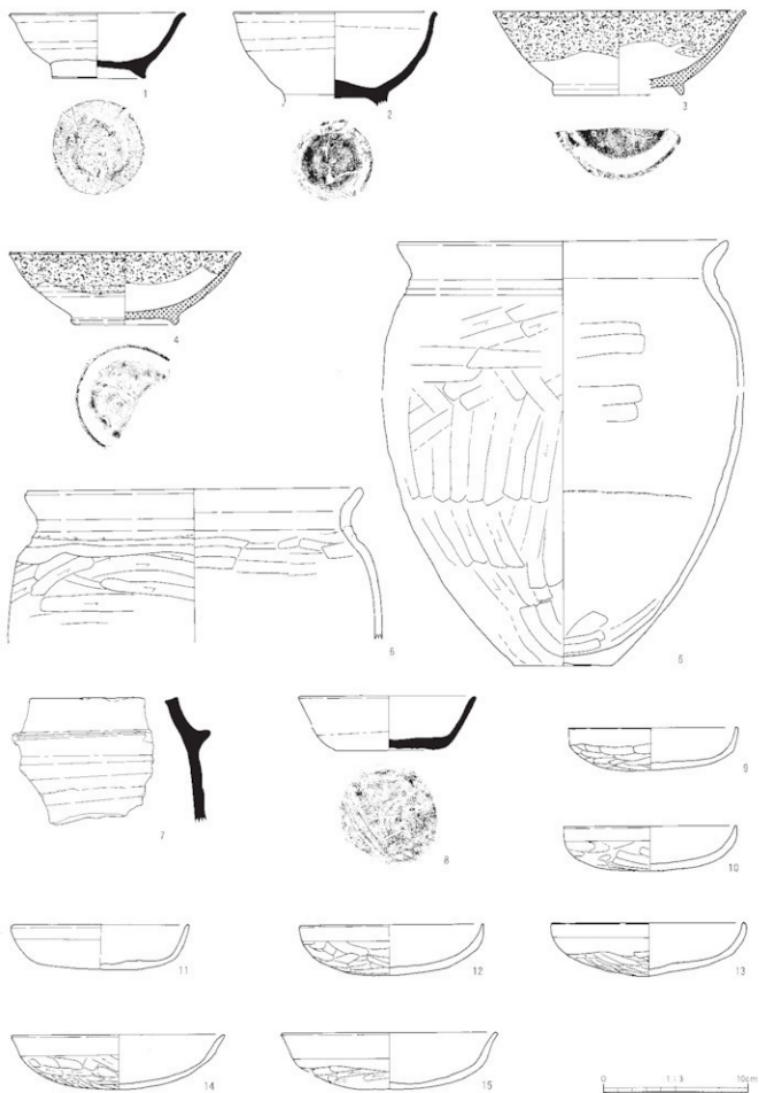


Fig.22 古墳奈良平安時代の土器

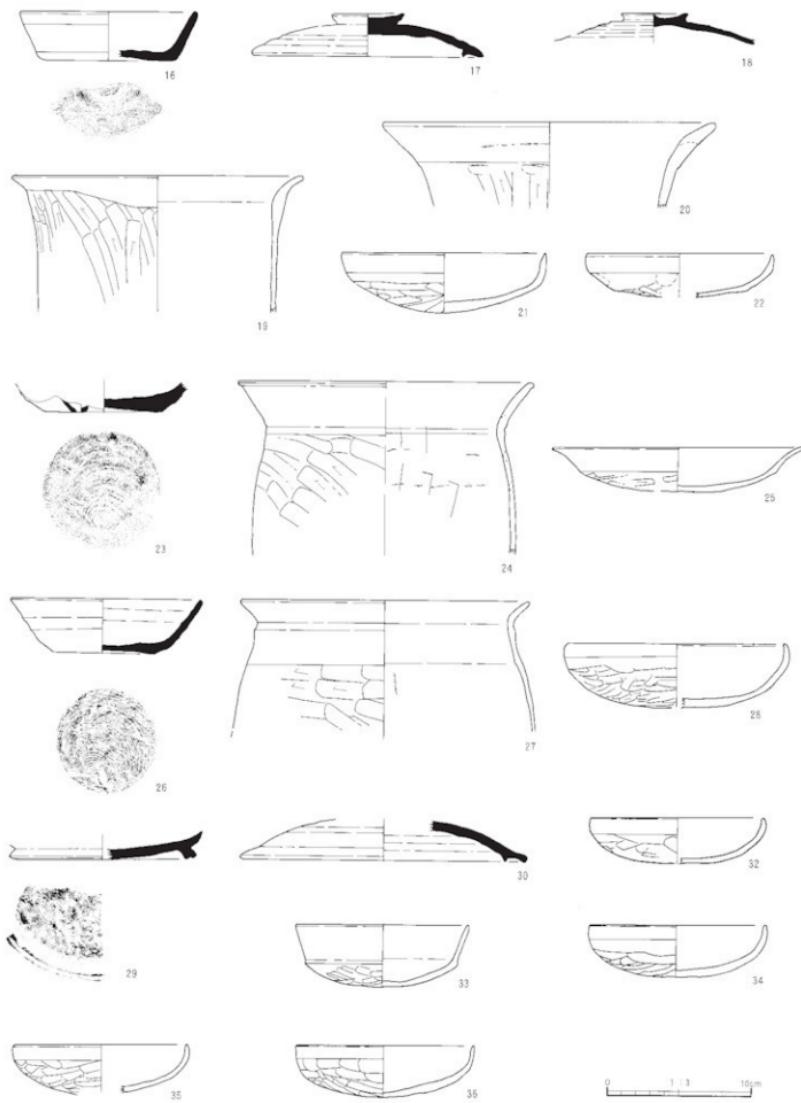


Fig.23 古墳奈良平安時代の土器



Fig.24 古墳奈良平安時代の土器

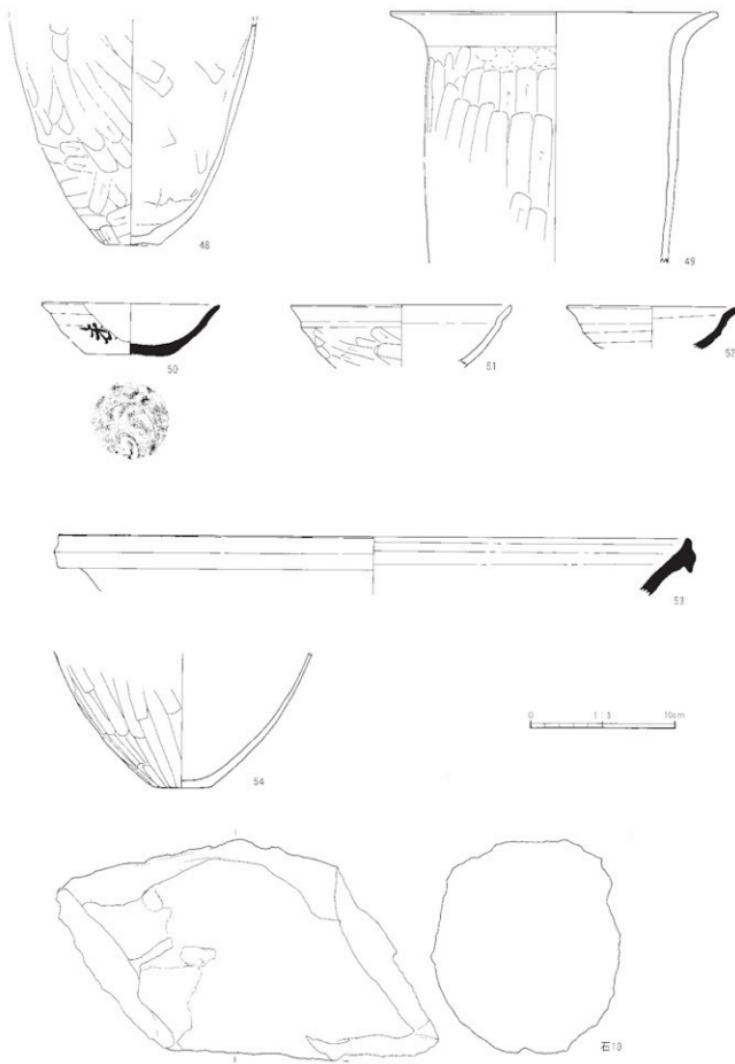


Fig.25 古墳奈良平安時代の土器、石棒

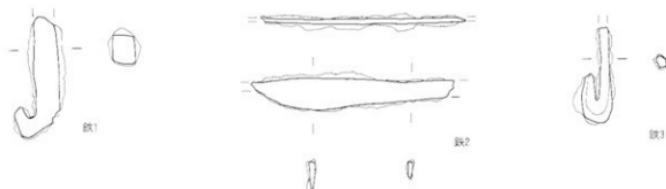
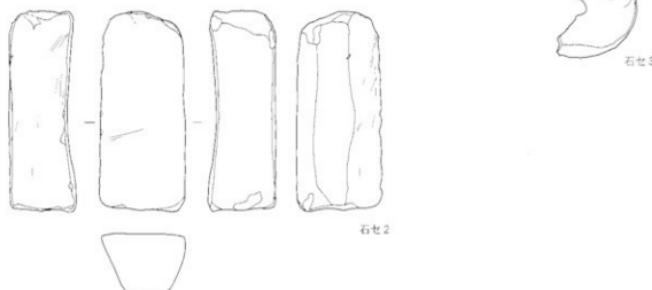
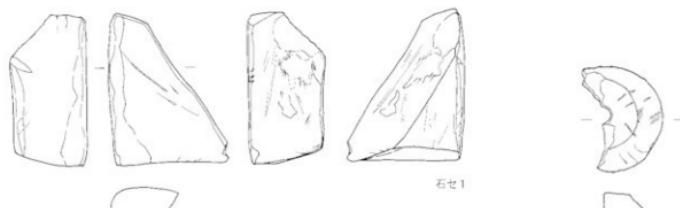


Fig.26 石製品・鉄製品

(比例尺)
1:1 2cm
1:2 5cm



J-1号住居跡全景 (南から)



J-1号住居跡遺物出土状況 (西から)



J-2号住居跡全景 (南から)



H-1号住居跡全景 (西から)



H-1号住居跡窓内遺物出土状況 (西から)



H-2号住居跡全景 (北から)



H-3号住居跡全景 (真上から)



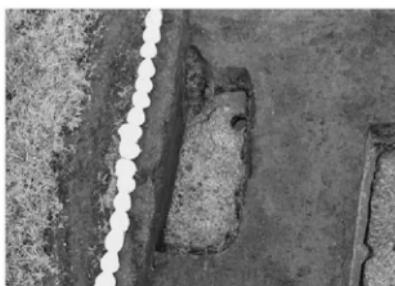
H-3号住居跡全景 (西から)



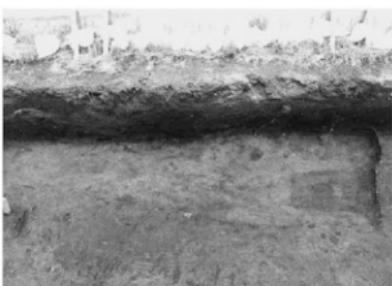
H-4号住居跡全景（真上から）



H-4号住居跡遺全景（西から）



H-5号住居跡全景（真上から）



H-6号住居跡全景（北から）



H-7号住居跡全景（西から）



H-8号住居跡全景（北から）



H-8号住居跡遺全景（真上から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡遺物出土状況（南から）



H-9号住居跡柱穴内遺物出土状況（南から）



H-10号住居跡全景（真上から）



H-11号住居跡全景（西から）



B-1号掘立柱建物跡全景（北から）



JD-5号土坑全景（南から）

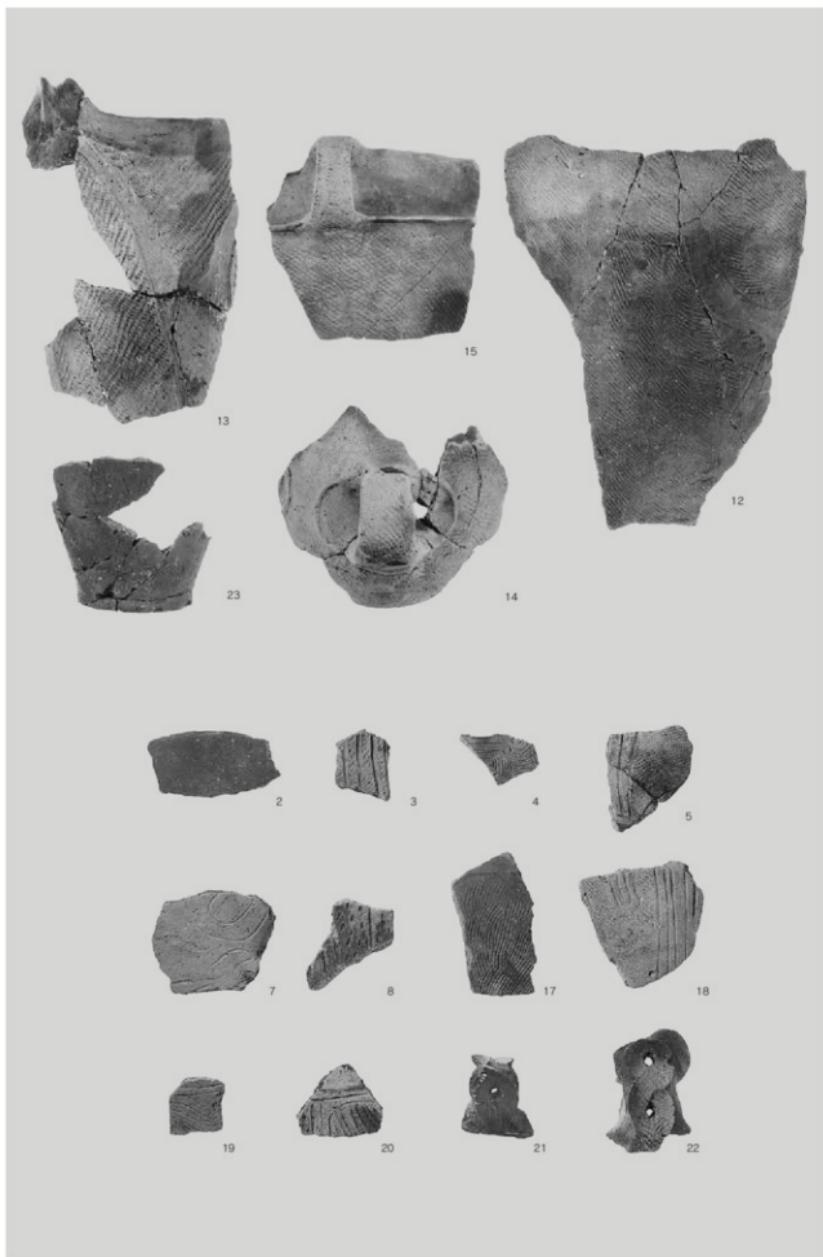


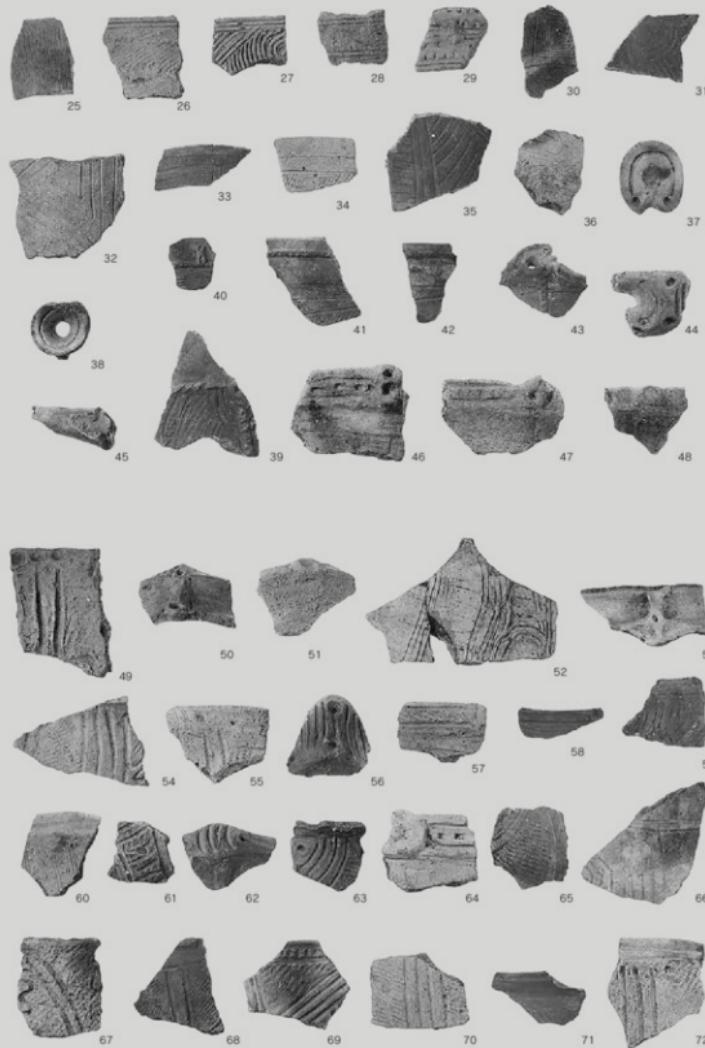
JD-6号土坑遺物出土状況（南から）



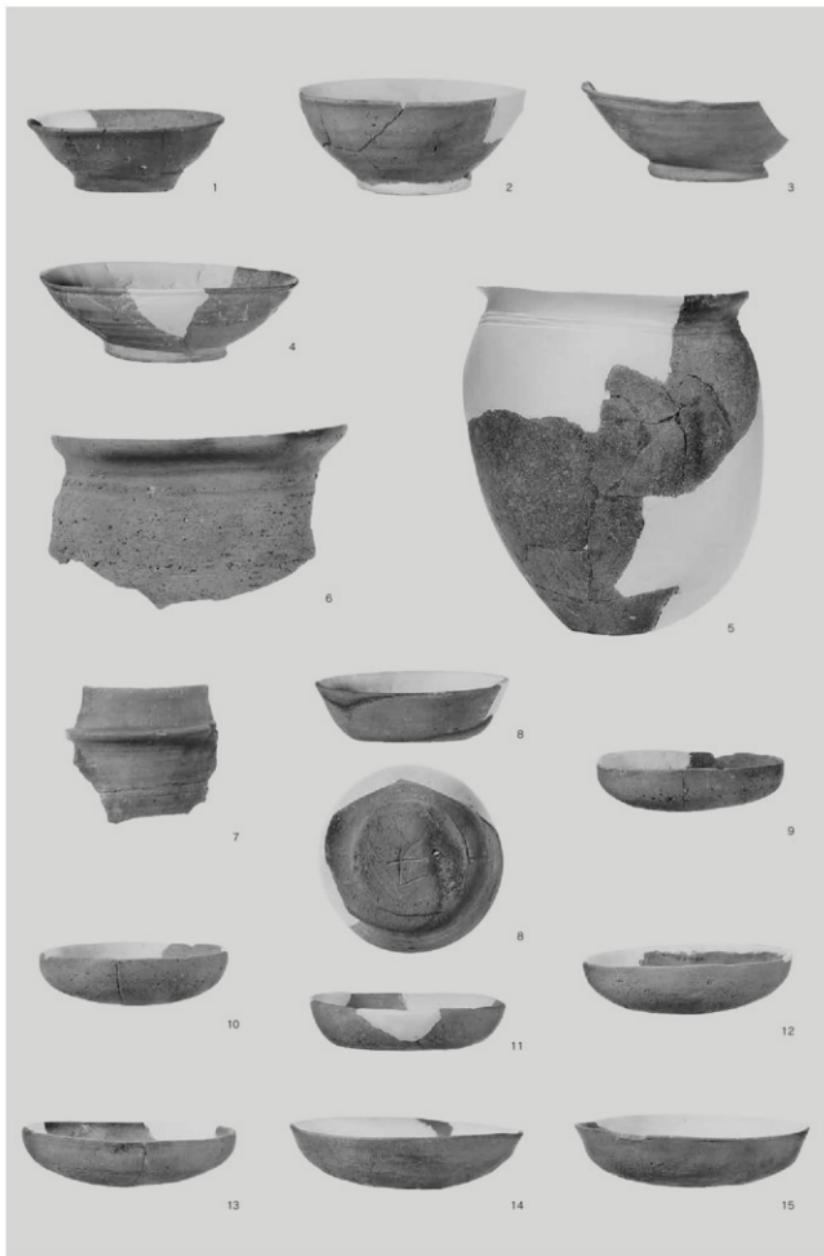
X6 Y4グリッド遺物出土状況（西から）

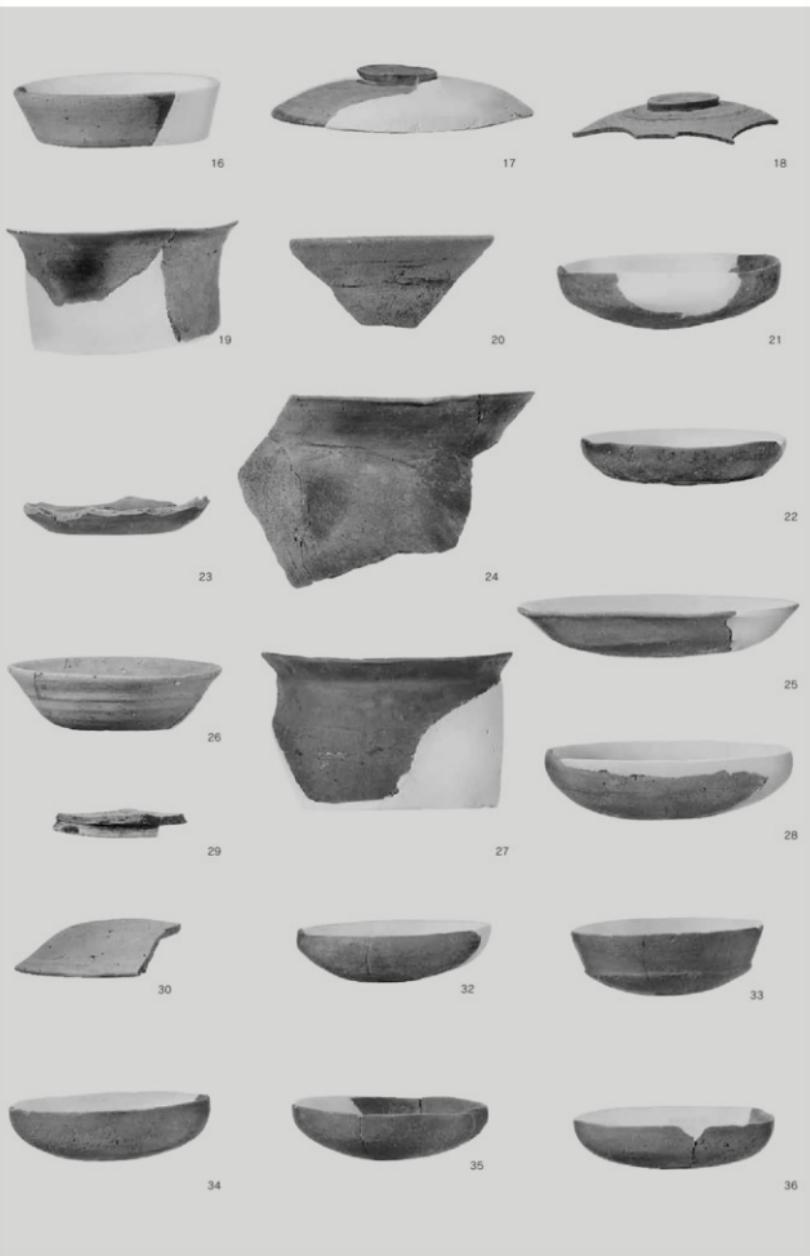


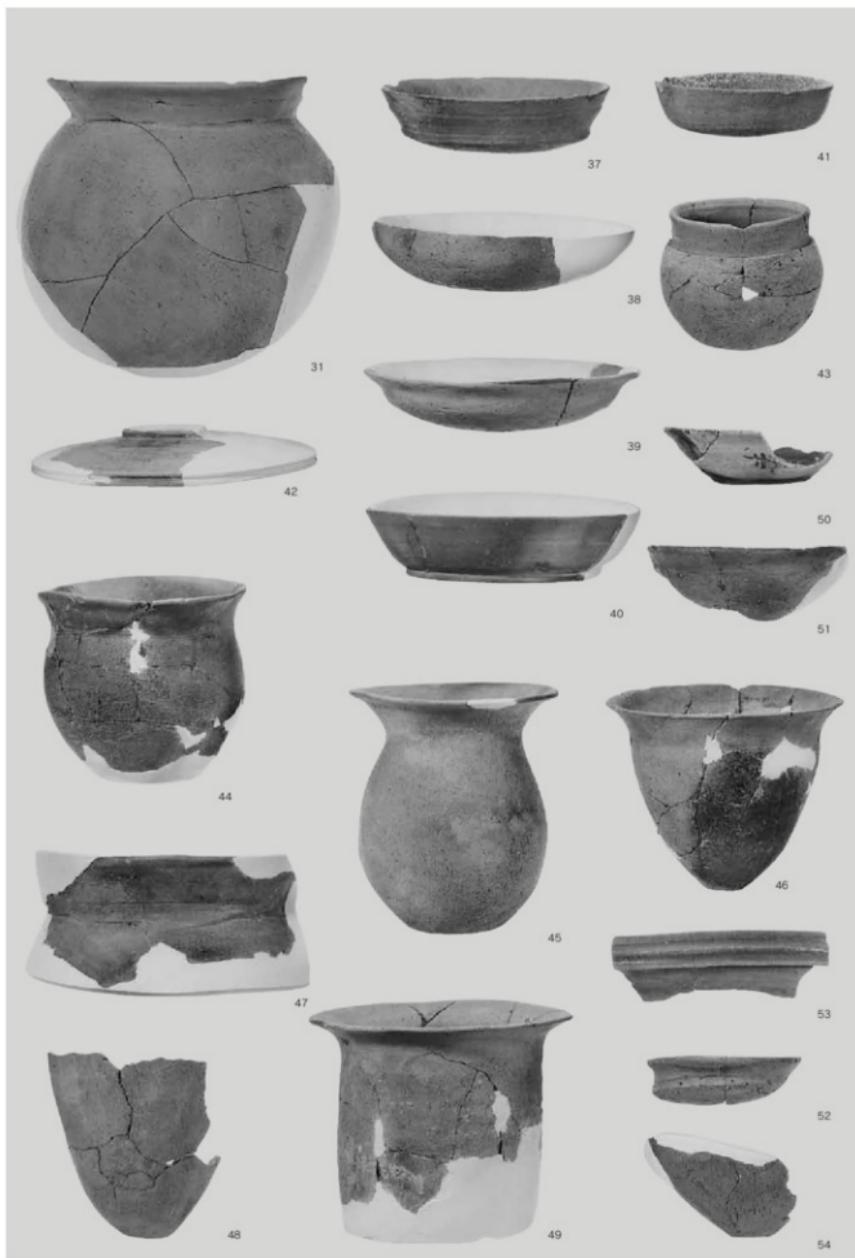














石10



石11



石12



石13



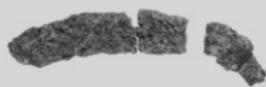
石14



石15



石16



石17

抄 錄

フリガナ	パパヒガシヤツギイセキ
書名	馬場東矢次遺跡
副書名	農業集落排水資源循環統合補助事業馬場地区汚水処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	高橋 亨・神宮 啓
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2007年3月22日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
馬場東矢次遺跡	前橋市馬場町 422-8	10201	18J 1	36°25'52"	139°11'59"	20060516 ↓ 20060818	1,172m ²	農業集落排水資源循環 統合補助事 業馬場地区 汚水処理施 設建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
馬場東矢次遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡2軒、土坑6基 竪穴住居跡2軒、 竪穴住居跡9軒、土坑9基	縄文土器、石器 土師器、須恵器 土師器、須恵器	ほか ほか ほか

馬 場 東 矢 次 遺 跡

2007年3月16日 印刷
2007年3月22日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三保町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 朝日印刷工業株式会社